KIORITZ

取 扱 説 明 書

共立自走畦畔ダスタ

DV1/52W

⚠ 警　告

ご使用前に、必ず取扱説明書をよく読んで正しく作業してください。
取扱説明書の指示内容を守ってください。
守らなかった場合は、死亡または重傷事故を起こす恐れがあります。

はじめに

ご挨拶

・共立自走畦畔ダスタをお買い上げいただき、ありがとうございます。

用途

・この散布機は、軽量・小型に製造された２サイクルエンジン付散布機です。
・この散布機は水田などの薬剤散布に使用するものであり、目的以外に使用しないでください。
・機械を改造してはいけません。
・整備不良の機械は危険ですので使用しないでください。

農薬使用上の留意点

・農薬ラベルをよく読んでください。
農薬の使用にあたっては、農薬ラベルに記載されている事項を確認してから使用してください。
・農薬取締法が改正されました。
平成１５年３月の農薬取締法改正にともなう省令に基づく使用基準により
①使用する作物に登録のある農薬を使用すること、
②使用濃度（希釈倍率）および面積あたりの使用量、
③収穫前使用日数、④使用回数の４点については農薬使用者が遵守する義務が生じています。

＊ １１ページの**農薬使用上の注意**も合わせてよく読んでください。

取扱説明書について

・この取扱説明書には、組立や操作、整備に必要な事項が書かれていますので正しく効果的な製品の取扱いができるよう、よく読んで理解してください。
説明をわかりやすくするため、使用している図は現品と異なる場合があります。
・単位はＳＩ単位（国際単位系）を使用しています。
（　）内は参考値ですので数%の換算誤差がある場合もあります。
・この取扱説明書は、いつでも読めるように必ず保管してください。
この取扱説明書が損傷により読めなくなったり、紛失した場合は、販売店から新しく取扱説明書を購入してください。

貸与、譲渡

・この取扱説明書で解説している機械を貸与する場合、借りて作業をする人に、この取扱説明書を読ませ、充分な指示、訓練を行なった後、この取扱説明書とともに機械を貸与してください。
製品を譲渡される場合は、この取扱説明書を製品に添付してお渡しください。

おことわり

・本書に記載されている仕様や解説あるいは説明のために例にあげられている図や内容は、改良のため予告なしに変更することがあります。
・本製品は一部部品の組立作業が必要となります。
・ご不明なことやお気付きのことがございましたら、販売店にご相談ください。

目　　次

はじめに 2
警告表示マークの意味 3
各部の名称 4
組立 8
　ハンドルの組立 8
　バッテリのカプラを接続する 8
　散粉、散粒装置の組立 8
正しい作業のために １０
　作業者の体調 １０
　保護具 １０
　薬剤 １１
　運搬 １２
操作方法 １２
　作業前の準備 １２
　燃料の取扱い １３
　エンジンの始動と停止 １５
　散布作業 １８
　散布ホースによる作業 １９
　肥料散布 ２０
　除草剤（1キロ粒剤）散布 ２０
　粉剤散布 ２１
　ＤＬ粉剤散布 ２１
　吐出量と調量レバー ２２
点検・整備 ２４
　整備の目安 ２４
　点検要領 ２５
故障診断と対策 ３１
保管 ３３
　長期保管（３０日以上） ３３
別売品 ３３
仕様 ３４
配線図 ３５

警告表示マークの意味

⚠ 危　険

その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものです。

⚠ 警　告

その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う可能性があるものです。

⚠ 注　意

その警告に従わなかった場合、ケガを負う恐れのあるものです。

丸に左斜線の入ったこの記号は、表示されているものが全て禁止されていることを表わします。

重　要

重要として囲まれた文章は、この取扱説明書で説明されている機械の使用、点検、保守・保管に関する重要な注意事項です。

- この取扱説明書で解説されている機械には、下表の「警告表示ラベル」が貼付してあります。
  ご使用前にラベルの意味を理解してください。
- ラベルが摩滅したり破損して内容が確認できなくなった場合や、はがれて紛失した場合は、販売店から新しくラベルを購入し、「各部の名称」に指示してある箇所に貼り、常にラベルが確認できる状態を維持してください。

警告表示ラベル

⚠ 危　険

給油口に火を近づけないでください。
給油中はエンジンを停止してください。
火災となるおそれがあります。　890098-00100

⚠ 警　告

排気ガスに注意

室内（ハウス等）および換気の悪い場所での運転は排気ガスが充満し、人体に有害です。

⚠ 警　告

- 作業中は、かならず保護めがね、保護マスク、耳栓、保護衣を使用してください。
- 農薬ラベル及び取扱説明書の農薬使用上の留意点をよく読んで正しく使用して下さい。

⚠ 注　意

ご使用前に必ず取扱説明書をよく読んで正しく作業してください。

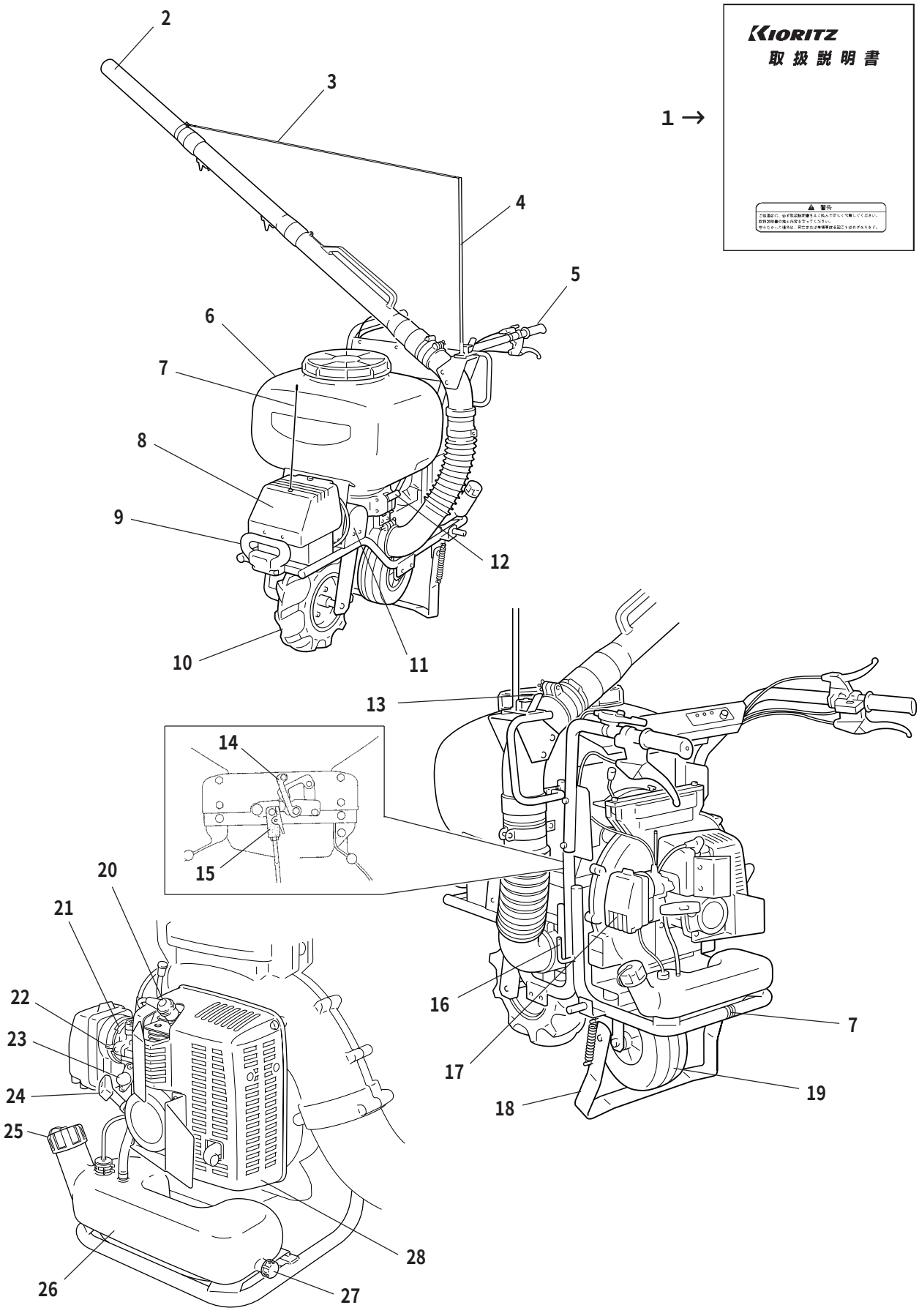
⚠ 注　意

運転中及び停止直後は、マフラーや本機上部カバーが高温になりますので、さわらないでください。
890016-03400

⚠ 注　意

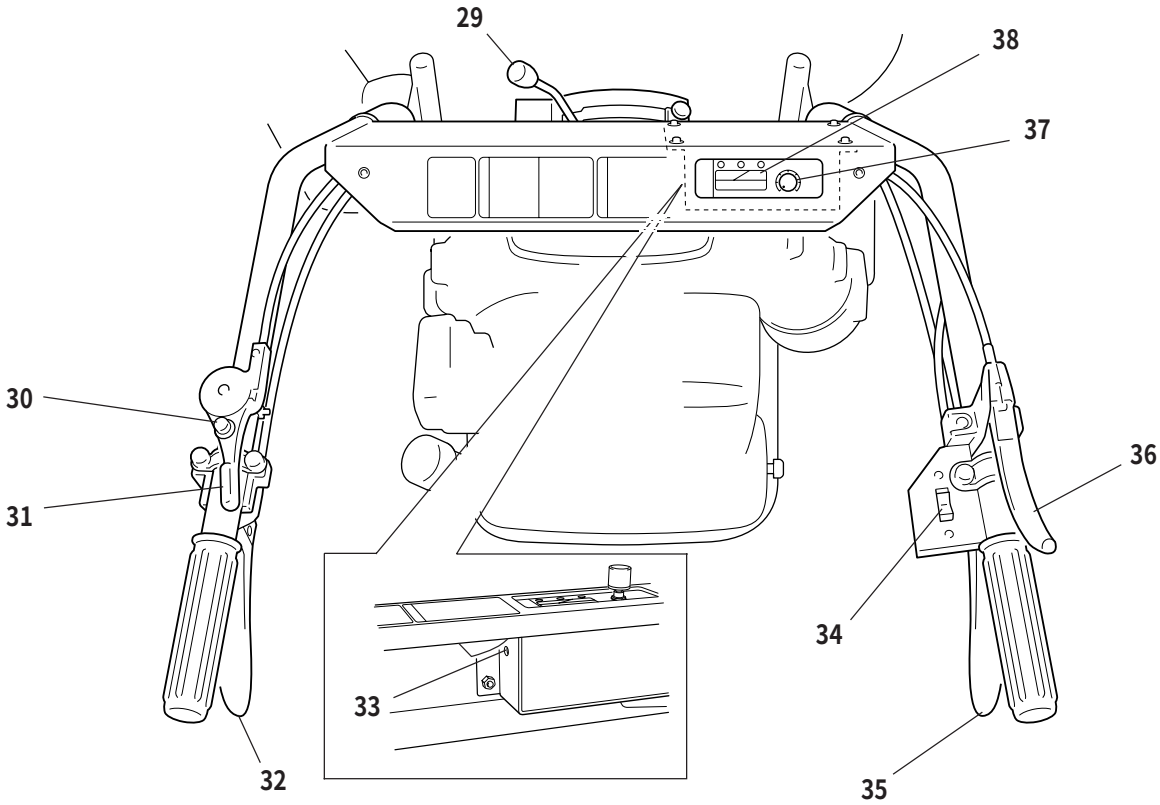
点検整備のときはエンジンを停止してください。
けがをするおそれがあります。　890016-02300

各 部 の 名 称


1 →
KIORITZ
取 扱 説 明 書
⚠ 警告
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28

各部の名称とその機能

１．取扱説明書	―	機械をお求めになったとき必ず付属しています。 機械を使用する前に必ず読んでください。 また正しい操作方法を再確認する場合に備え、すぐ取出せる場所に、必ず保管してください。
２．畦畔噴頭	―	肥料、粒剤を散布するときに使用します。
３．吊り紐	―	畦畔噴頭を吊り ます。
４．噴管支持棒	―	畦畔噴頭を支えます。
５．ハンドル	―	走行時に使用します。
６．薬剤タンク	―	薬剤を入れる容器です。
７．マーカー（前後）	―	畦畔走行の目印として利用します。
８．バッテリ	―	走行用モータの電源です。
９．フロントバンパー	―	障害物から本機を守ります。(固定用のロープ掛けにも使用できます。)
１０．前輪	―	走行モータの駆動力を伝えます。
１１．走行モータ	―	走行用のモータです。
１２．固定レバー	―	薬剤タンクを固定します。
１３．噴管回動ストッパー	―	噴管の方向調整に使用します。
１４．リンクストッパ	―	使用していないシャッタを固定します。
１５．ロッド固定金具	―	散布薬剤に合わせて切替えを行ないます。
１６．ロープフック	―	固定用のロープを掛けるフックです。
１７．エアクリーナ	―	エンジンに供給される空気をきれいにします。
１８．スタンド	―	本機を立てるときに使用します。
１９．後輪	―	走行を安定させるためのタイヤです。
２０．スパークプラグ	―	エンジンの頭部に組付けられ、シリンダ内の混合気に点火するものです。
２１．キャブレタ	―	空気と燃料を混合します。
２２．チョークレバー	―	始動時に燃料と空気の混合比を濃くするレバーです。
２３．プライマリポンプ	―	始動前にこのポンプを押して、燃料タンクからキャブレタに燃料を送り込みます。
２４．スタータグリップ	―	エンジンを始動するときに使用します。
２５．燃料タンクキャップ	―	燃料タンクを密閉するふたです。
２６．燃料タンク	―	燃料を入れる容器です。
２７．燃料タンクドレンプラグ	―	機械を保管するときに残った燃料を排出します。
２８．マフラカバー	―	消音器（マフラ）をカバーし、作業者が不用意に熱いマフラに触れるのを防ぎます。



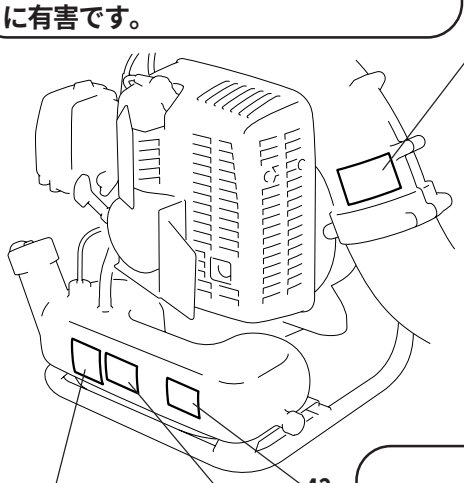
⚠ 警　告

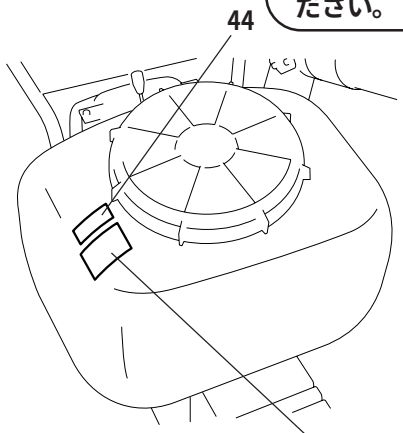
排気ガスに注意

室内（ハウス等）および換気の悪い場所での運転は排気ガスが充満し、人体に有害です。

⚠ 注　意

ご使用前に必ず取扱説明書をよく読んで正しく作業してください。





⚠ 注　意

運転中及び停止直後は、マフラーや本機上部カバーが高温になりますので、さわらないでください。

890016-03400

⚠ 危　険

給油口に火を近づけないでください。
給油中はエンジンを停止してください。
火災となるおそれがあります。

890098-00100

41

⚠ 注　意

点検整備のときはエンジンを停止してください。
けがをするおそれがあります。

890016-02300

⚠ 警　告

- 作業中は、かならず保護めがね、保護マスク、耳栓、保護衣を使用してください。
- 農薬ラベル及び取扱説明書の農薬使用上の留意点をよく読んで正しく使用して下さい。

各部の名称とその機能

２９．調量レバー	―	粉剤、粒剤、肥料の吐出量を調節します。
３０．ストッパ解除ボタン	―	このボタンを押した状態ではスロットルレバーのストッパが解除されてアイドリング／始動位置からエンジン停止位置までスロットルレバーを動かせるようになります。
３１．スロットルレバー	―	エンジン回転数を調整するためのレバーです。また、エンジンを停止するときにも使用します。
３２．調量閉レバー	―	レバーを握ると吐出量が少なくなります。
３３．充電端子	―	バッテリを充電するときに使用します。充電は必ず専用の充電器で、この端子から行ないます。
３４．走行スイッチ	―	前進、後進、停止を切替えるスイッチです。 「走」 自走するときにこの位置にします。（自走は前進のみです。） 「停」 本機を停止しておくときにこの位置にします。この位置ではモータが抵抗となりブレーキを掛けた状態になります。本機をトラックから降ろすときにはこの位置で行ないます。 「後」 この位置にすると前輪がフリーの状態になり（駆動されません）手動で後進できるようになります。また、後進に限らず普通に手動で移動するときはこの位置にします。
３５．調量開レバー	―	レバーを握ると吐出量が多くなります。
３６．走行抵抗レバー	―	走行速度を減速するときに使用します。
３７．走行速度スイッチ	―	走行速度を調整するスイッチです。走行モータの電源スイッチも兼ねています。
３８．バッテリチェッカー	―	走行時にバッテリの残量を表示します。（充電時には充電状態を表示します。）
３９．警告ラベル	―	エンジンの排気ガスは有毒です。屋内など換気の悪い場所で使用しないでください。
４０．危険ラベル	―	給油口に火を近づけないでください。 給油中はエンジンを停止してください。 火災となる恐れがあります。
４１．注意ラベル	―	点検整備のときはエンジンを停止してください。 ケガをする恐れがあります。
４２．注意ラベル	―	運転中及び停止直後は、マフラーや本機上部カバーが高温になりますので、さわらないでください。
４３．警告ラベル	―	作業中は必ず保護めがね、保護マスク、耳栓、保護衣を使用してください。農薬ラベルおよび取扱説明書の農薬使用上の留意点をよく読んで正しく使用してください。
４４．注意ラベル	―	ご使用前に必ず取扱説明書をよく読んで正しく作業してください。

組　　立

図１

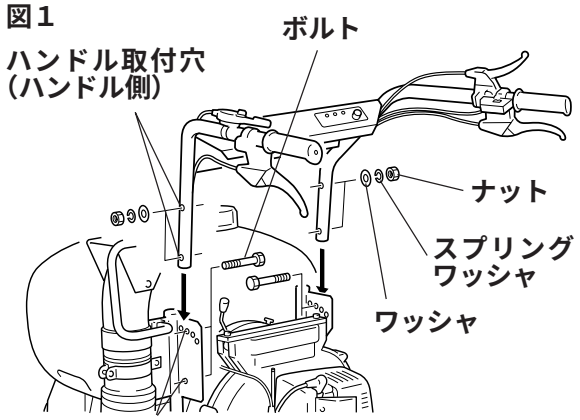


図２

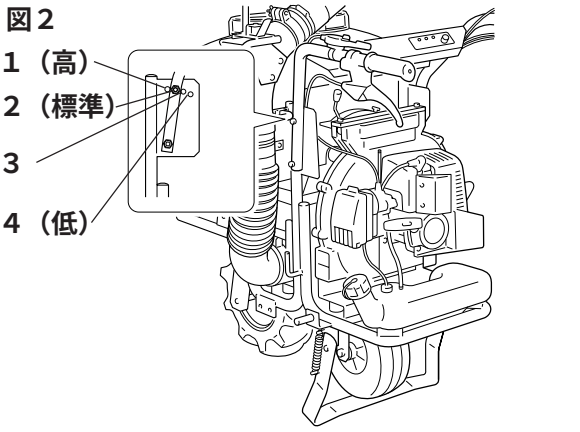
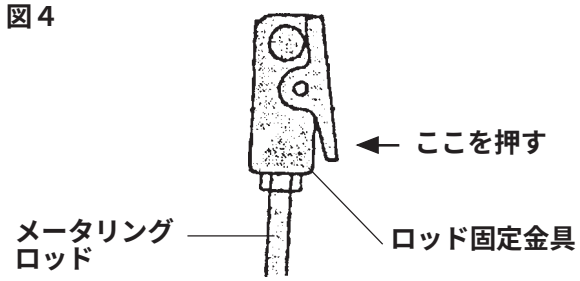


図４



・機械を改造してはいけません。
・整備不良の機械は危険ですので使用しないでください。

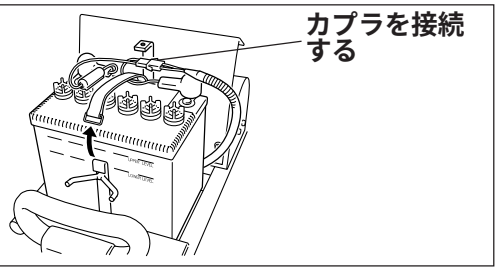
ハンドルの組立

ハンドルは本機のハンドル取付穴（４ヶ所）にハンドル側の取付穴位置を合わせて図１のようにボルト、ワッシャ、スプリングワッシャ、ナット（各４ヶ）を使用して固定します。
ハンドルの高さは４段階で調整できますので、作業しやすい位置に固定してください。（図２参照）

バッテリのカプラを接続する

出荷時はバッテリのカプラが接続されていません。カプラを接続してください。（図３参照）
カプラはバッテリカバーを取外さずに接続できます。また、バッテリは満充電の状態ではありませんので使用前に充電してください。（１２ページ参照）

図３



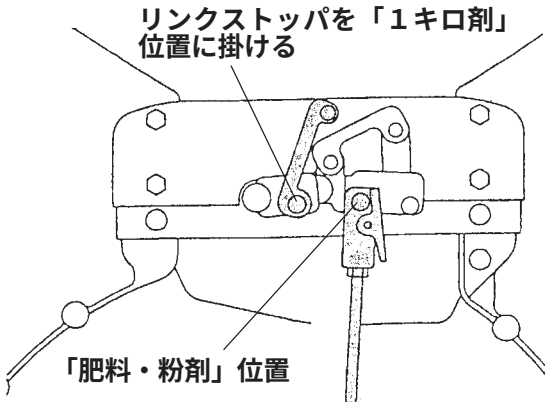
散粉、散粒装置の組立

散布する薬剤により、メータリングロッドを適切な調量シャッターにセットします。（図５参照）
メータリングロッドは図４の矢印部を押すとロックが外れて調量シャッターから抜き差しできるようになります。調量シャッターにメータリングロッドをセットしてから図４の矢印部から指を離すとロックされます。

図５

使用しないシャッターには必ずリンクストッパを掛けてください。

メータリングロッドを「肥料･粉剤」位置にセットしてください。



メータリングロッドを「１キロ剤」位置にセットしてください。

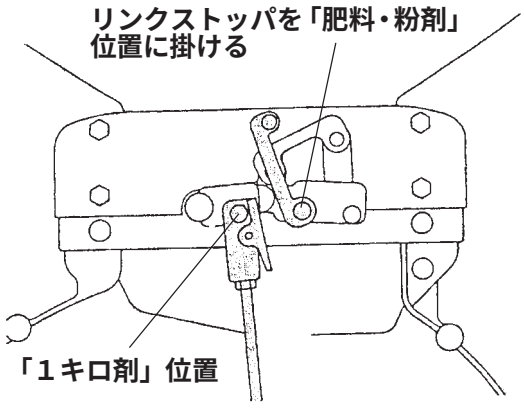


図１

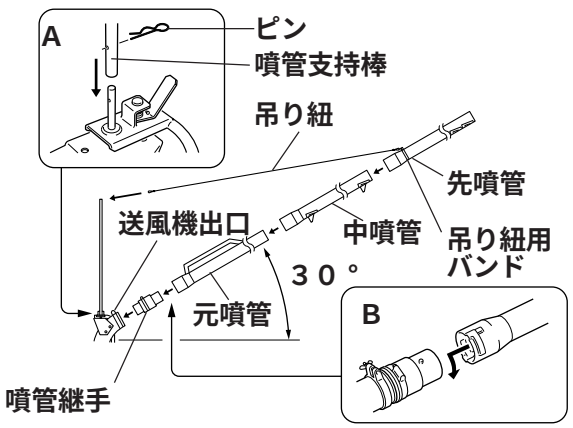


図２

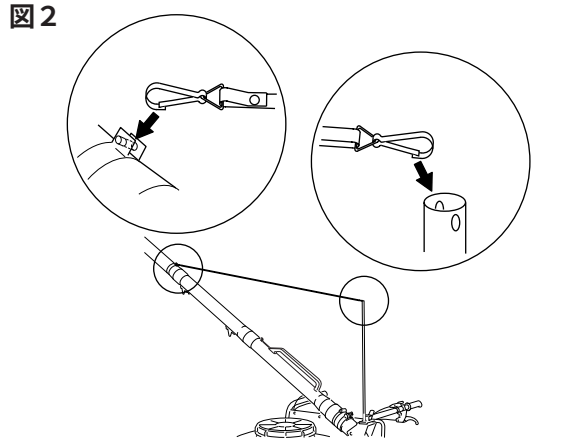
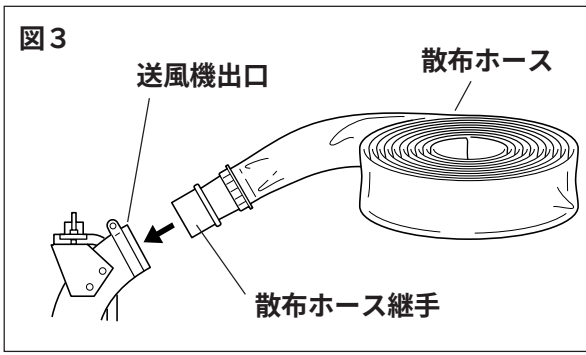


図３



畦畔噴頭の組付

- 噴管支持棒を本機に取付けてピンを差し込み固定します。（図１　A参照）
- 送風機出口に、噴管継手、畦畔噴頭を組付けてください。畦畔噴頭は元噴管、中噴管、先噴管の順番で組立てます。図１　Bのように噴頭の先にある凸を噴頭の元にあるガイドに差し込み、右に回すと噴頭が固定されます。
- 吊り紐用バンドを先噴管に取付けます。
- 吊り紐で畦畔噴頭を吊り畦畔噴頭が水平からの角度が３０°になるように調整します。

散布ホース（別売品）の組付

散布ホースは次のものがあります。
ご利用状態によってお選びください。
(別売品：３３ページ参照)
散粉ホース：３０，４０m
散粒ホース：肥料用
　　２０，３０m
　　１キロ剤用
　　３０，４０m

- ホース継手（別売品）を送風機出口に差し込み散布ホース継手の先に散布ホースをかぶせて散布ホース締付具の先細りの部分で締付ます。必ず散布ホースを引いて抜けないことを確認してください。
- 吐粉・吐粒孔が必ず真下になるようにします。

正しい作業のために

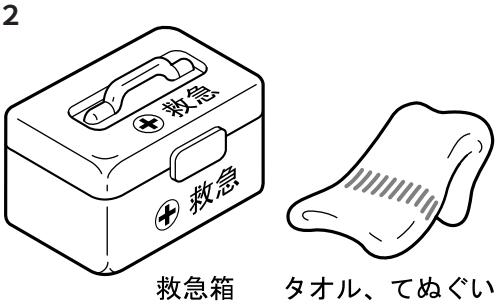
⚠ 警　告

- 機械が不適切に使われたり、あるいは使用上の注意を守らないと、重大事故を起こす可能性があります。
- 使用する薬剤に直接触れることを避けてください。
- 機械を運転するときは、適切な衣類と正しい保護具を身に付けてください。

図1



図2



救急箱　　タオル、てぬぐい

図3

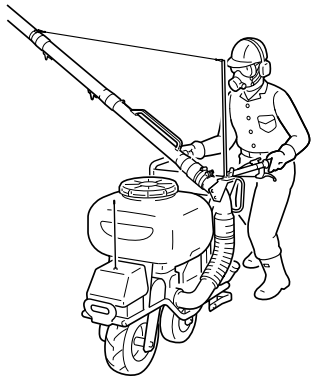


図4



⚠ 注　意

- 機械を操作する人は心身ともに健康でなければなりません。本機や薬剤の知識を持たない人や子供などには使わせないでください。
- 夜間や天候不良などの視界の悪いときは作業をしないでください。

作業者の体調

- 疲れているときは、機械を使用しないでください。もし､作業中に疲れた場合は作業を中断し休憩してください。気分の悪さや疲れが続くようでしたら、医師に相談してください。
- 酒を飲んでいる人、薬物の影響がある人は、機械を操作しないでください。視覚や敏しょう性、判断力に影響をおよぼします。
- 妊娠している人、運転が未熟な人、負傷中などで薬剤の影響を受けやすい人は機械を操作しないでください。また薬剤に触れないでください。

ケガへの備え

- 万一のケガへの備えとして､応急手当用品の入った救急箱を用意してください。
  出血をともなうケガについては､止血用に汗拭き用のタオルや、てぬぐいなども有効ですので、常時余分に作業現場へ携帯することをおすすめします。
- 応急手当については、地域の消防署や消防組織（消防団など）で知識､技能の普及につとめていますので、それらの講習、訓練を受け、基本的な知識を習得されることをおすすめします。

保護具

身体を保護する衣服

足や体がむき出しにならない､耐薬品性のある作業衣を着用してください。衣服はボタン、ファスナを完全にし､裾じまりや袖じまりをよくしてください。フリルや飾りヒモは機械などに絡まる原因になります。ネクタイ､だぶついた服､宝石類は着用しないでください。髪の毛は肩より上でまとめてください。

目の保護

目の保護に保護めがね（ゴーグル）を着用してください。日常､めがねを使用している人は､そのめがねの上から保護めがね（ゴーグル）などの目を保護するものを付けてください。

頭部の保護

作業帽または防護頭巾を使用し頭部や首を保護してください。

図1

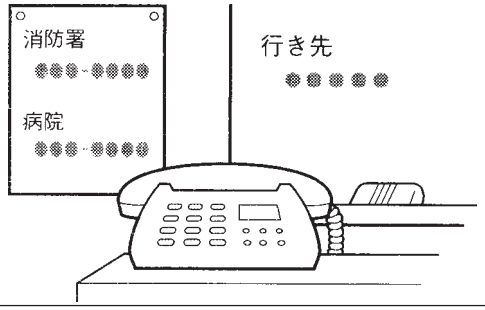
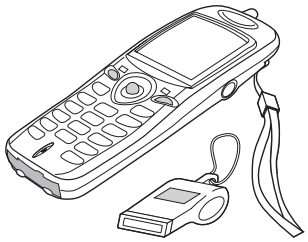


図2



⚠ 警　告

硫黄は大変燃えやすい物質です。硫黄分を含む薬剤を散布するときは、薬剤の取扱説明書をよく読んで注意して取扱ってください。

⚠ 注　意

農薬使用上の注意

・散布時は、農業用マスク、手袋、長ズボン、長袖の作業衣などを着用してください。農薬に直接触れないよう注意してください。
・作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに洗眼してください。
・農薬が目に入らないように注意してください。
・誤飲、誤食に注意してください。誤って飲み込んだ場合は、吐き出し、直ちに医師の手当てを受けてください。また、農薬使用中に異常を感じたときは、直ちに医師の手当てを受けてください。
・また、農薬の種類によっては、
　☆農薬が目に入った場合は直ちに水洗し、眼科医の手当てを受けてください。
　☆かぶれを生ずる場合がありますので注意が必要です。また、かぶれやすい人は、使用を控える必要があります。
・環境へ配慮した使用が必要です。
　☆防除対象作物以外への飛散がないよう注意してください。
・農薬は、子供の手が届かない場所に保管してください。

重　要

常に、新しく乾燥した薬剤（粉剤/粒剤/肥料）を使用してください。

耳の保護

長時間大きな音を聞いていると聴覚が弱くなったり、聞こえなくなったりする原因となります。耳覆い（イヤーマフ）や耳栓などの聴覚を保護するものを着用して騒音から耳を保護してください。

手の保護

ゴム手袋またはビニール手袋を着用してください。直接薬剤に触れないでください。

脚全体の保護

滑りにくい作業用長靴を履いてください。
つま先のあいた靴を履いたり、裸足で機械を使用してはいけません。

身体の保護のためのその他の事項

・保護用の衣類は汗をかき、疲労を増します。気温が高いときは作業を中止し気温が下がってから作業をしてください。
・農薬散布のときは、農薬マスク（付属の防除マスクなど）を着用し農薬を吸い込まないようにしてください。
　付属の防除マスクは防毒マスクではありません。
・万一の事故に備え、電話機のそばの目につきやすい場所に、医療機関、消防署（救急車）の電話番号を明確にしておいてください。
　特に消防署への連絡の場合、救急車のための目標地点（住所、目標となる建造物など）も明確にしておくと、的確な連絡に役立ちます。
・単独で作業する場合、どこで作業を行なっているかが他の人にもわかるような方法（携帯電話を持つ、黒板に作業現場をメモするなど）を講じてください。
　負傷し動けなくなり帰れなくなった場合の対処として有効です。
・作業現場には、呼子（笛）を携帯してください。

薬剤

・農薬ラベルをよく読んでください。
・薬剤はタンクからあふれるほどの量を入れないでください。また、薬剤がこぼれたときはすぐに拭き取ってください。
・本機や薬剤に関する知識を持たない人や、子供などには取扱わせないでください。
・薬剤タンクキャップはしっかりと締め、運転時に薬剤が漏れないようにしてください。

図１

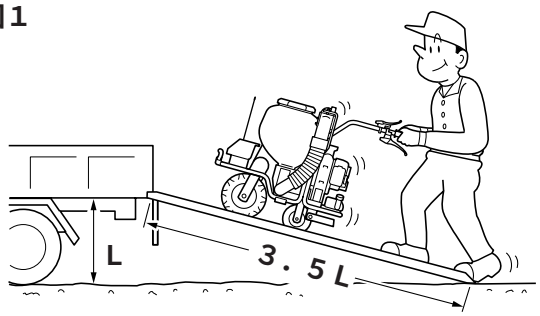
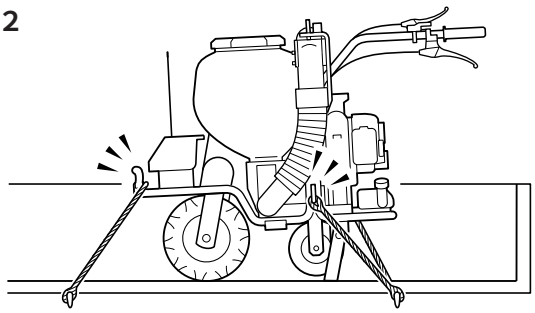


図２



重要

走行スイッチを「停」にすると前輪はモータの抵抗でブレーキが掛かった状態になりますが、この状態で手動で移動してください。

運搬

運搬時、自走畦畦ダスタを輸送機に積み降ろしするときは以下のことに注意してください。

- 本機に適したアユミ板（トラック荷台高さの３．５倍以上の長さがあるもの）を準備してください。
- 本機を積み込むときは、必ず前進、低速走行で行ないます。
- 積み込んだら、スタンドを立てます。
- フロントバンパーとロープフック（左右）を利用して本機を荷台に確実に固定します。

重　要

フロントバンパー、ロープフック以外にロープを掛けないでください。
部品の破損につながります。

- 本機を降ろすときは、走行スイッチを「停」にして手動後進で行ないます。このとき、走行抵抗レバーで速度を調整してください。

⚠ 警　告

本機を積み降ろしするときは、必ず薬剤タンクをカラにしてください。

操　作　方　法

作業前の準備

バッテリの充電

⚠ 危　険

バッテリ取扱いの注意

- バッテリの取扱いはバッテリ液、火気などに充分注意してください。
- バッテリの液量がバッテリの側面に表示されている下限（LOWER LEVEL）以下になったまま使用または充電をすると、バッテリの破裂（爆発）の原因となる恐れがあります。
- バッテリの液量がバッテリの側面に表示されている下限（LOWER LEVEL）以下で使用を続けると、容器内の各部位の劣化の進行が促進され、バッテリの寿命を縮めたり、破裂（爆発）の原因となる恐れがあります。
- バッテリのコードは押え金具などの金属部分に近づけないようにして確実に固定してください。
  接触（ショート）すると引火爆発や火災の原因となる恐れがあります。
  プラスターミナルにカバーがある場合は、きちんとカバーをしてください。
- バッテリの上またはバッテリカバーの上には、物を置かないでください。
- バッテリをセットするとき、バッテリターミナルが本機フレームに接触しないようにしてください。

⚠ 警　告

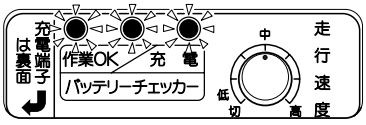
下記のことを守らないと、火災の原因になることがあります。

- バッテリに充電するときは、必ず専用充電器を使用してください。
- 専用充電器は本機以外のバッテリの充電には使用しないでください。
- バッテリを分解したり、火や水の中に投入しないでください。

重　要

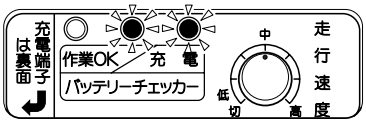
- 開梱時はバッテリが満充電の状態ではありません。必ず使用前に充電してください。
- 本機の電気制御部分のトラブルを防ぐため、必ずシーズン使用前に充電してください。
- 市販の充電器で充電すると故障の原因になります。
- ２４時間以上充電しないでください。過充電になりバッテリ劣化の原因になります。

図１　バッテリチェッカのランプの点灯状態でバッテリ残量を確認できます。
満充電の状態から矢印の順番でランプの点灯個数が変化していきます。



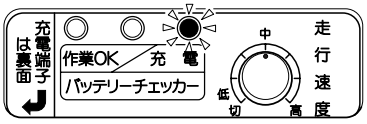
ランプが３個点灯しているときは充電する必要はありません。そのままで作業できます。

1



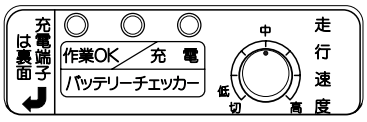
ランプが２個点灯しているときは作業は可能ですが、バッテリの寿命に影響しますのでなるべく充電するようにします。

2



ランプが１個点灯しているときは充電してください。作業はできません。

3



ランプが点灯しないときは充電してください。
作業はできません。

図２

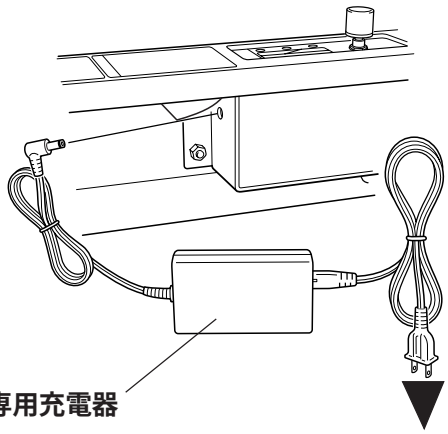
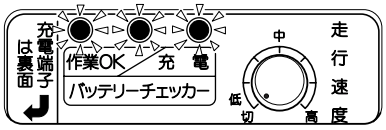


図３



ランプが３個点灯したら
充電終了

走行速度スイッチ「中」で走行スイッチを「走」にして本機を走行状態にしたときのバッテリチェッカのランプの点灯数で充電状態を判断し、必要な場合は充電します。（図１参照）

重　要

バッテリ残量をチェックするときは、駆動輪を接地し、実際に走行してください。
駆動輪を空回りさせると、正確な残量をチェックできません。

バッテリチェッカの充電端子に専用充電器の充電ジャックを差し込みます。専用充電器の電源プラグを家庭用ＡＣ１００Ｖのコンセントに差し込みます。標準充電時間はおよそ１５時間です。（目安としてバッテリチェッカのランプが３個点灯します。）
充電が完了したら、専用充電器を外し、コンセントから電源プラグを抜いてください。

重　要

- 混合燃料の長期保管は劣化しやすいので、燃料は使用する分量だけ混合してください。
  燃料の混合は、機械の燃料タンクで行なわないでください。
- 燃料タンク、燃料タンクキャップ、ブリーザ、燃料パイプなどは使用前に点検し、異常が発見された場合は使用せず交換してください。
- ＪＡＳＯ性能分類：２サイクルエンジンオイルの潤滑性能順にＦＣ、ＦＢ、ＦＡの３種類に分類し表示します。
  共立純正２サイクル専用オイルは「ＦＣ」で、混合比「５０：１」で使用します。

燃料の取扱い

⚠ 警　告

- 引火しやすいので、燃料の取扱いは火災に充分注意してください。
  燃料の補給中にタバコを吸ったり、火花を出したりしないでください。
- エンジンが熱いときや、エンジンを始動したままでの燃料補給は絶対にしないでください。
- 作業中、万一、エンジンから発火または排気口以外から発煙したら、まず機械から離れ、自分の身体の安全を確保してください。

ガソリン	2サイクルエンジンオイル	
L	mL	
	50：1	25：1
4	80	160
8	160	320
20	400	800

図1

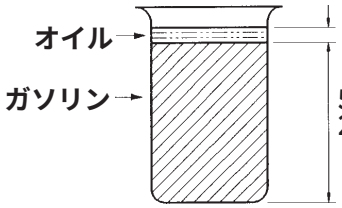


図2

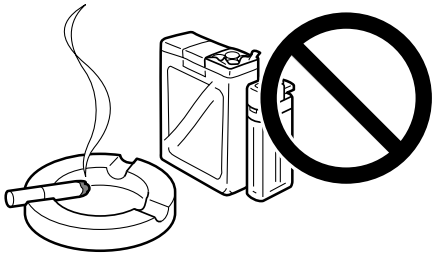


図3

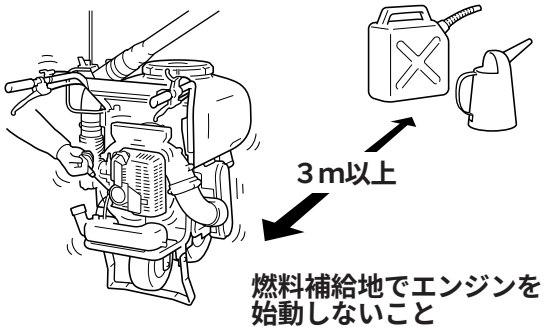


図4

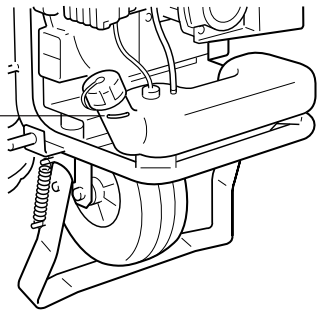


図5



⚠ 注　意

燃料を補給する前に燃料タンクドレンプラグを確実に締めてください。
燃料を補給する際は燃料補給ポンプを使用し、機体が安定した状態で給油口からこぼれないように注意して補給してください。
傾斜地では補給しないでください。
機械に燃料が少しでもこぼれたら、必ず拭き取ってください。

- 本機の燃料にはレギュラーガソリンと、2サイクルエンジンオイルを混合した燃料を使用してください。正しくない燃料はエンジン機能不良の原因となります。
- 燃料の混合比は、2サイクルエンジンオイルの種類により下記の通り使用してください。
  ・共立純正2サイクル専用オイル ;[50：1]
  　JASO性能分類　FC
  ・2サイクルエンジンオイル　　;[25：1]
  　JASO性能分類　FB、FA
- ガソリンとオイルの混合はガソリン用の容器を使用し、よく混合してください。
- 燃料を補給する前に、燃料タンクドレンプラグが確実に締まっていることを確認してください。
- 燃料タンク内には、外気との間に圧力差が生じています。
  燃料を補給するときは、燃料タンクキャップをすこしゆるめて、圧力差を取除いてください。
- 燃料タンクに燃料を補給するときは、屋外の舗装されていない地面の上で行なってください。
  屋内では燃料を補給しないでください。
- エンジンが熱いときや、エンジンを始動したままでの燃料補給は絶対にしないでください。
- 燃料は規定レベル（燃料タンク肩口）を超えて補給しないでください（図4参照）。規定レベルを超えると使用時にキャブレタから燃料が漏れることがあり、火災の原因になります。
- 燃料を補給した後は、燃料タンクキャップを確実に締めてください。
  また、燃料系統各部から燃料が漏れていないか確認してください。
  燃料が漏れている場合は、エンジンを始動せずにお買い求めの販売店にご相談ください。
- 補給用タンクは火気のない日陰に保管してください。
- エンジンを始動する前に、燃料を補給した場所から3m以上移動してください。
- 燃料タンクに燃料が残っている状態で機械をしまわないでください。燃料漏れがあった場合、火災の原因となります。
- 自分の身体を、火災その他の傷害から守るように注意してください。
  草木などに類焼しないよう注意してください。
  シャベルで砂などをかけるか、または消火器で消火してください。

⚠ 警　告

エンジンの排気ガスには、死に至る有毒なガスが含まれています。屋内や通気の悪い場所でエンジンを始動しないでください。

図１
屋内での運転禁止

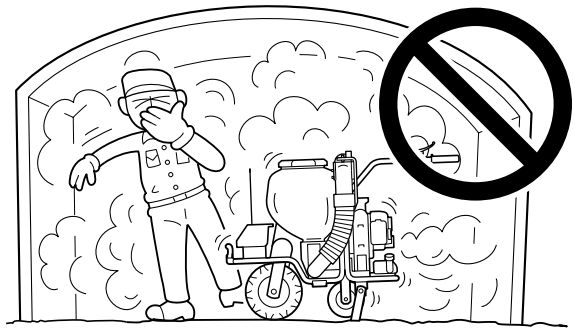


図２

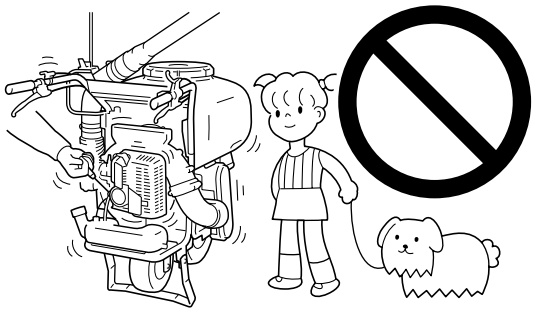
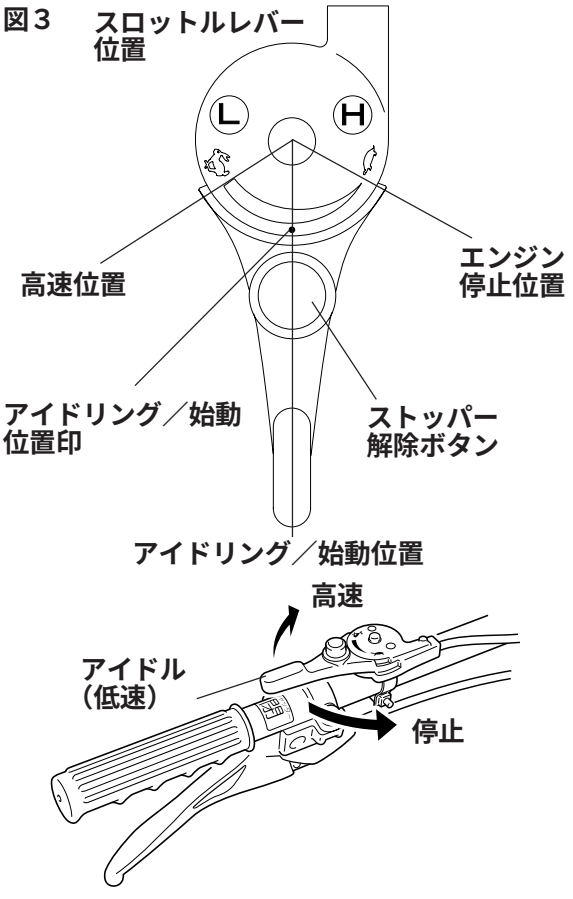


図３



エンジンの始動と停止

⚠ 注　意

- **エンジンを始動する前に、ボルトやナット、ネジが締まっているか確認してください。ゆるんでいる場合は、増し締めしてください。**
- **燃料が漏れていないか確認してください。燃料が漏れている場合は、エンジンを始動せずにお買い求めの販売店にご相談ください。**
- **エンジンを始動する前に、薬剤タンクキャップをしっかり締めてください。**
- **機械の周囲は充分に広くとり、人、動物は近づけないこと。また、障害物がないことを確かめてから始動してください。**
- **機械は地面にしっかりと押え、始動してください。**
- **エンジンが停止しないときはチョークを閉じると停止します。機械を再び使用する前に、スロットルレバーの点検をしてください。**

重　要

- **始動時には調量レバーは必ず閉じておきます。**
- **噴管なしで運転されますと正規の回転が上がらないだけでなく、エンジン不調の原因となります。**
- **スタータグリップを引くときは、まず軽く引出し更に素早く引いてください。引き紐の２／３以上は引出さないでください。**
- **スタータグリップを戻すときは、途中で手から離さないでください。**

- **エンジンを始動するときは、平らで安定した場所でスタンドを立てます。調量レバーを閉じ、スロットルレバーをアイドリング／始動位置にしてください。（スロットルレバーをアイドリング／始動位置印より高速側にすると、ストッパーが働いてスロットルレバーがアイドリング／始動位置より低速側にできなくなります。ストッパー解除ボタンを押しながらスロットルを操作すると、エンジン停止位置に戻すことができます。図３参照）**
  燃料パイプが折れ曲がっているときは、エンジンを始動しないでください。

図１

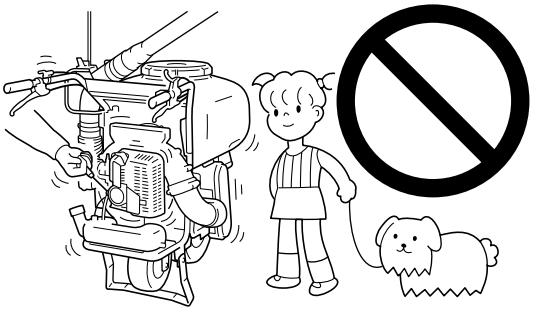


図２

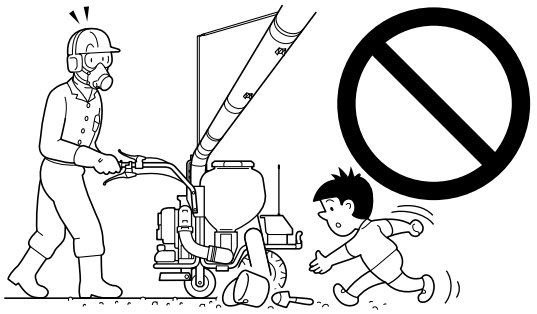


図３

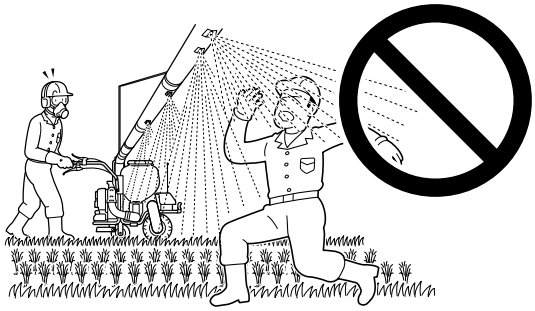
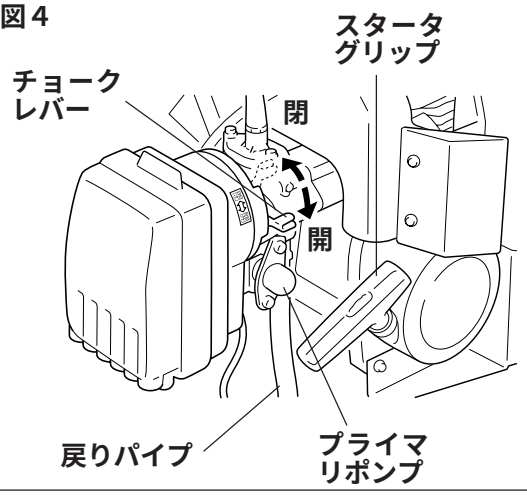


図４

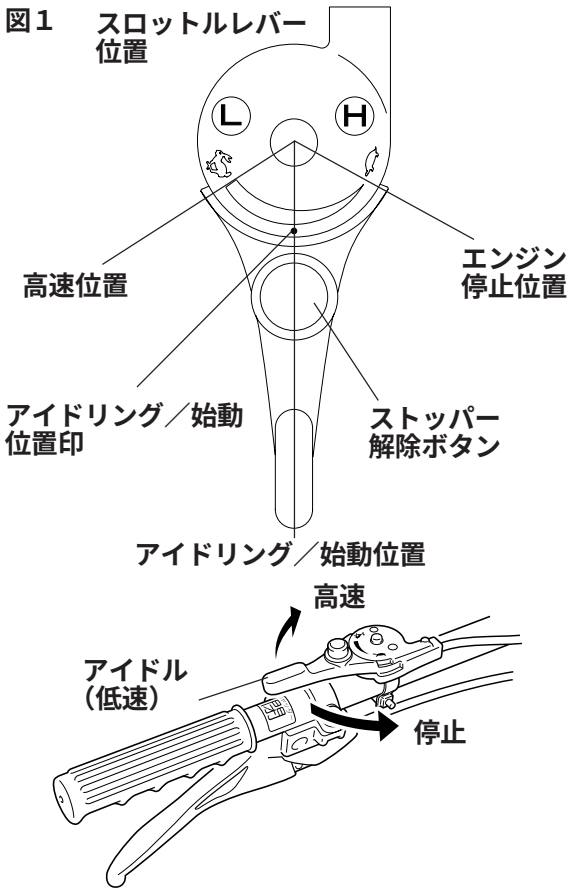


- この機械を使用する場所をチェックしてください。障害物は作業する場所から取除いてください。
- 足場の悪い所ではこの機械を使わないでください。
- 機械の始動時、また使用時は、その場所に他の人やペットを近づかせないでください。
- 噴管を人や動物に向けないでください。
- この機械を扱う際、高温による火傷を防止するため、手や体をマフラやシリンダなどの高温部に触れないようにしてください。
- 整備の良くない機械や自分勝手の改造品を取付けた機械を使わないでください。
- 全装備での機械操作時は特にバランスを失わないように注意してください。
- 夜遅くまたは朝早く近隣の人に騒音で迷惑をかけるときは、この機械を使うことを避けてください。
- マフラが、正常に機能していることを確認してください。機械が適切に作動するように、エアクリーナの空気吸入部分とエアフィルタもチェックしてください。

始　動

- スロットルレバーをアイドリング／始動位置にします。このとき、スロットルレバーがロックされエンジン停止位置に戻らないことを確認してください。(１７ページ図１参照)
- プライマリポンプを押す・離すの操作をくり返して、燃料戻りパイプから燃料が下がってくるのを確認してください。(図４参照)
- チョークを“閉”にします。チョークレバーを上側にすると閉じます。(図４参照)
- スタータグリップを軽く２～３回引いて燃料を吸い込ませてから強く引くと始動します。
- 始動後はチョークを徐々に戻し（チョークを“開”にする）そのまま低速の状態にして暖機運転を行ないます。
- エンジンが暖まっているときはスロットルレバーをアイドリング／始動位置(１７ページ図１参照)にしてチョークは“開”で始動します。このときプライマリポンプを押す必要はありません。

図１



運　転

暖機運転後、徐々にスロットルレバーを上げて風量を調節し、作業に入ってください。

停　止

まず調量レバーを閉じて、薬剤の吐出が完全に止まっていることを確かめてから、スロットルレバーを低速（アイドル／始動）位置にします。しばらく低速運転してその後、ストッパー解除ボタンを押しながらスロットルレバーをエンジン停止位置にしてください。（図１参照）

エンジンが停止します。

1	調量レバー	閉
	↓	
2	スロットルレバー	アイドル／始動（低速）位置
	↓	
3	スロットルレバー	エンジン停止位置

エンジン停止後、キャブレタ内の燃料は自動的に排出されます。

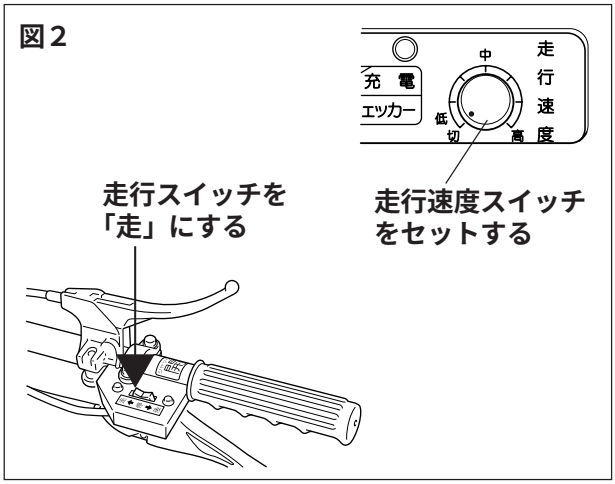
長期に機械を使用しないときは、必ずスパークプラグキャップを抜き、エンジンが始動しないようにしてください。

重　要

大きな石や段差などでタイヤがロックしたり、走行速度が極端に遅くなる走路（軟弱な畦畦や登り坂など）では、保護回路が働き、モータが停止することがあります。

モータが停止したときは、走行スイッチを「停」に戻してから、再度「走」にして走行してください。

図２



走　行

重　要

走行するときは、必ず両手でハンドルを持って操作してください。

走行速度を再調整するときは、必ず走行を停止してスタンドを立ててください。

- 走行速度スイッチを目的の走行速度に合わせます。走行速度は０．３（「低」）～０．５ｍ/ｓ（「高」）の範囲で調整できます。
- 両手でしっかりハンドルを持ち、本機を前方に押し出してスタンドをしまいます。
- 走行スイッチを「走」にすると、バッテリチェッカのランプが点灯し、前進走行を始めます。
- ランプが点灯しない、または１個しか点灯しない場合は、充電してください。（１３ページ図１参照）

図1

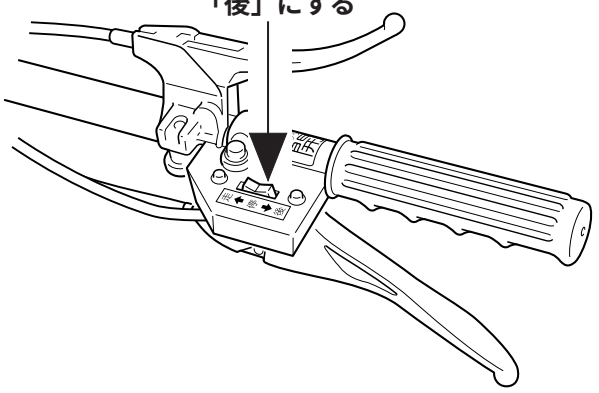
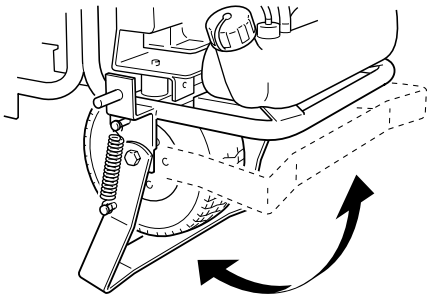


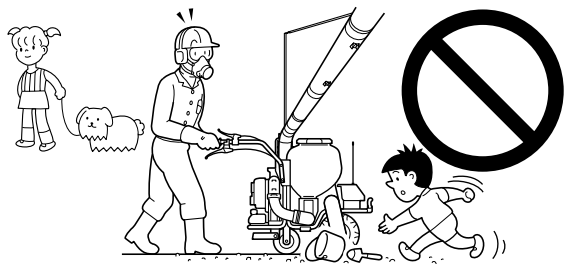
図2



⚠ 警　告

夜間や、視界が悪く暗い場所では、機械を絶対に操作しないでください。

図3



⚠ 危　険

走行が不安定になる悪路ではこの機械を使用しないでください。
機械が転倒してバッテリ液や燃料が流出すると、火災や火傷の原因になり大変危険です。

⚠ 警　告

畦畔を走行するときは畦畔の中央を走行してください。畦畔の縁を走行すると機械が滑り落ち転倒する可能性があります。

後進するときは走行スイッチを「後」にしてハンドルを後方に引きながら手動で後進します。

重　要

走行スイッチを「後」にすると、駆動輪が駆動されません。手動で移動してください。
手動で移動する場合は、前進、後進に関係無く走行スイッチを「後」にしてください。

旋回するときはハンドルを少し持ち上げて後輪を浮かせるか、またはハンドルを少し押し下げて前輪を浮かせて旋回します。

スタンドを立てるときはスタンドに足をかけてスタンドを下げながら本機を後方に引きます。本機の安定を確認してハンドルから手を離します。

重　要

作業終了時は、必ず走行速度スイッチを「切」に、走行スイッチを「停」にしてください。

散布作業

傷害事故を防止するため

- **薬剤を被ることのないよう、風の強い日や雨の日は機械を使わないでください。**
- **作業を始める前に、風向きをみてください。周辺にドアや窓の開いている家、自動車、ペット、子供、あるいは薬剤による傷害を起こすものがあるときには、薬剤は散布しないでください。**
- **散布は、風下に向かって行なってください。**
  薬剤の分散による損失を少なくして薬剤の散布効率を高めるため、風のない温度が安定している朝、または夕方を選んで作業してください。
- **散布作業中は喫煙、飲食をしないでください。農薬を吸引したり、食べ物に付着した農薬が体内に入る恐れがあります。**
- **作業中に着ていた服は、他の衣服とは別に洗ってください。**

粉剤の補給

粉剤をタンクに入れたまま長時間放置すると、粉剤の種類によっては固くしまり、出が悪くなることがありますから、散布直前に補給することが大切です。

図１

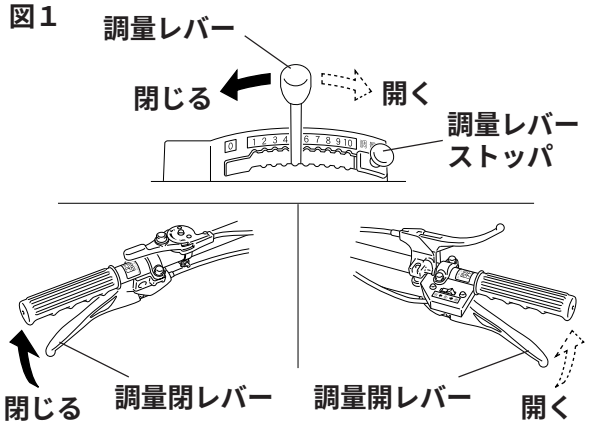
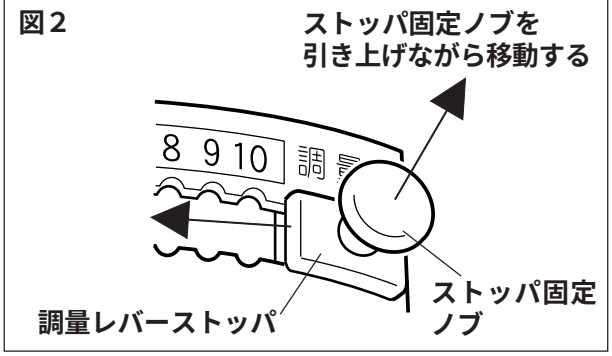


図２



⚠ 警　告

- 農薬散布のときは、農薬用マスク（付属の防除マスクなど）を着用し農薬を吸い込まないようにしてください。付属の防除マスクは防毒マスクではありません。
- 散粉ホースの中持ち作業は農薬をあびる恐れがあり危険ですから絶対にしないでください。

図３

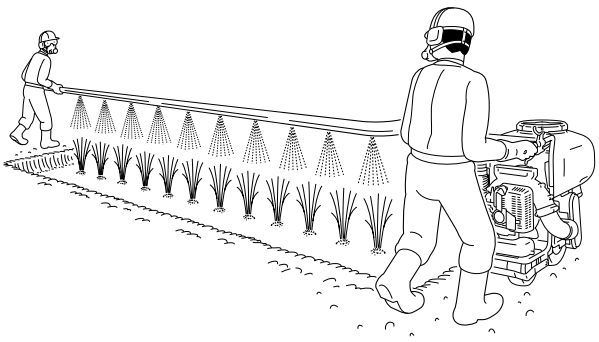
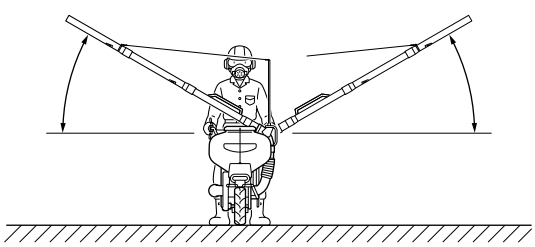


図４



調量レバーの操作

散布作業中に調量レバーを操作するときは、必ず調量開レバーまたは調量閉レバーを使用します。（図１参照）ハンドルから手を放さないでください。

- 最初に吐出量を決めて調量レバーストッパを調量レバーが目的の位置で止まるようにセットしておきます。（調量レバーストッパの使用方法を参照）
- 調量レバーはエンジンを使用回転に上げてから調量開レバーでいっきに開きます。
- エンジンを停止または、低速にするときは必ず調量閉レバーで調量レバーを閉じてからスロットルレバーを低速にしてください。

調量レバーストッパの使用方法

粉剤、粒剤、肥料を散布するときは、それぞれの適正位置に調量レバーストッパを固定させて調量レバーの開度を規制して使用します。

- ストッパ固定ノブをつまみ、引き上げます。調量レバーストッパを調量レバーを止めたい段数の１つ上の段の位置に動かします。
- ストッパ固定ノブを放すと、調量レバーストッパが固定されます。

散布ホースによる作業

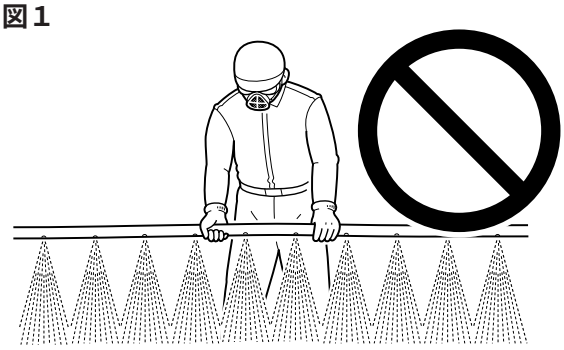
重　要

湿度などの変化により、吐粉量が異なる場合がありますから注意してください。
粉剤が固くしまって吐粉ムラとなる場合がありますので、使用する直前に粉剤を入れてください。

自走畦畔ダスタを操作する作業者と、ホースの先端を保持する作業者の二人で、農道や畦畔などから散布することができます。

- 散布ホースは２０m～４０mのものがあり、粉剤、粒剤を均等に散布することができます。
- 各種の薬剤に対応して、一般粉剤用ホース、ＤＬ粉剤用ホース、粒剤用ホース、肥料用ホースがあります。
- 散布時は、薬剤が防除対象部（草冠部または株元）で拡散されるようにホースの高さを調整、保持します。
- 気象条件は、昼間は風の弱いときでも、上昇気流によって散布した粉剤が飛散するので、防除効果が劣り適切でありません。夕方もしくは早朝の無風時が最も良く、早朝で霧のある場合は、ホースを濡らさないように注意します。
- 散布ホースは作業中、水平になるように運転状態を調整します。最初にエンジン回転を徐々に上げ、散布ホースを水平より多少上がりぎみにしてから、調量開レバーで調量レバーを開くと、薬剤がホース内を通り、水平になります。
- 散布ホースの吐出口は作物の草冠部から、約１０cm離れた位置（病害虫によって位置を変える）とし、散布ホースを水平に保ち吐出口は真下に向けて散布するように、先端のホース保持者が注意します。

図１



重　要

- 粒径３.５mm以上の肥料はホースで散布するとホース内に残留することがあります。
- 吐出量を約１０ｋｇ／ｍｉｎ以上にするとホース内に肥料が残留することがあります。
- ホースで２０ｋｇ／１０ａ散布のときは、１０ｋｇ／１０ａで往復散布してください。
- 肥料の粒径や湿度などの変化により吐出量が変わりますのでご注意ください。
  畦畔噴頭で被覆肥料（ＬＰコート、セラコートなど）を散布の際はスロットルレバーの開度を低めにしてください。

図２

肥料を散布するとき

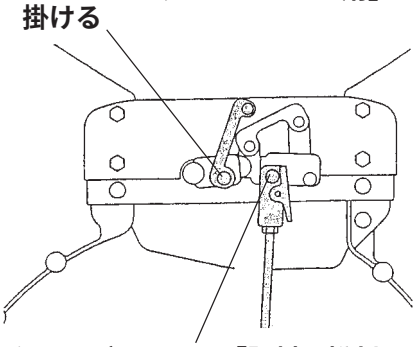
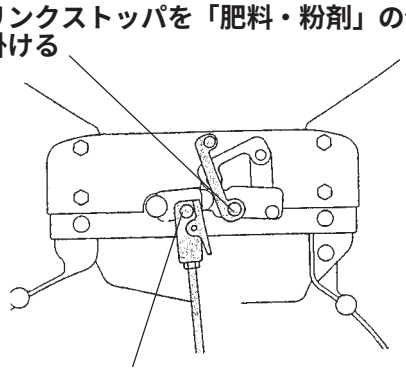


図３

除草剤（１キロ粒剤）を散布するとき



- 防除作業に適する風の条件は薬剤の付着率から、風速２～３m/sまでが限度と言われていますが、風のある場合は風下から風上に向かって散布し、できるだけ農薬をかぶらないように注意します。
- 散布ホースの中持ち作業は、薬剤の濃度が高く、農薬の身体への付着率が高いので、禁止されています。薬剤を出したときに、散布ホースが水平になるように、自走畦畔ダスタのスロットルレバーを調整します。

肥料散布

メータリングロッドを「肥料・粉剤」の位置にセットし、リンクストッパを「１キロ剤」の位置に掛けます。

畦畔噴頭による散布

- エンジン回転を充分に上げ、噴頭は３０°程度上向きにすると、均一に散布できます。
- 風の方向、強さによっては噴頭角度の調整が必要な場合があります。
- 風上から風下に向かって散布すると、飛距離が延びるので、これを考慮して散布してください。
- 無風時の最大有効散布幅は２０mです。

散粒ホース（肥料用）による散布

（粒剤用多口ホース噴頭大粒用）

- ホースを伸ばし、一人がホースの先端を保持します。
- ホースの先端を持つ人は、ホースが水平になるように引っ張り、たるまないようにして機械側の人と平行になるように歩きます。
- 濡れたホースは、よい散布効果をえられないことがあります。
- 散布終了後は調量レバーを全閉にして肥料を充分に吐き出しきり、ホースが濡れないところまで移動してエンジンを停止します。
- 肥料ホースを使って大量に散布しながら急に肥料ホースの根元を押えることは避けてください。
  散布ムラやホース損傷の原因となります。
  散布しながら僅かに浮き上がるように風量を調整します。
- 肥料ホースは規定の長さで使用するように心掛けてください。調量は２２ページのグラフを参照してください。

除草剤（１キロ粒剤）散布

メータリングロッドは「１キロ剤」の位置にセットし、リンクストッパを「肥料・粉剤」の位置に掛けます。

- １キロ粒剤は散布精度を要求されますので調量シャッタの調整は確実に行なってください。

畦畔噴頭による散布

- エンジン回転を充分に上げ、噴頭は３０°程度上向きにすると、均一に散布できます。
- 風の方向、強さによっては噴頭角度の調整が必要な場合があります。
- 風上から風下に向かって散布すると、飛距離が延びるので、これを考慮して散布してください。
- 無風時の最大有効散布幅は１５mです。

散粒ホース（除草剤用）による散布

（粒剤用多口ホース噴頭小粒用）

- 操作は散粉ホースと同じようにし、散布しながらホースが僅かに浮き上がるように、エンジンの回転数をスロットルレバーで調整します。
- ２３ページを参考にして、適正な開度と歩行速度で散布してください。

粉剤散布

重　要

エンジン回転を上げ過ぎると、噴管操作がやりにくくなりますので、上げ過ぎないように注意してください。

散粉ホースによる散布

メータリングロッドは「肥料・粉剤」の位置にセットし、リンクストッパを「１キロ剤」に掛けます。

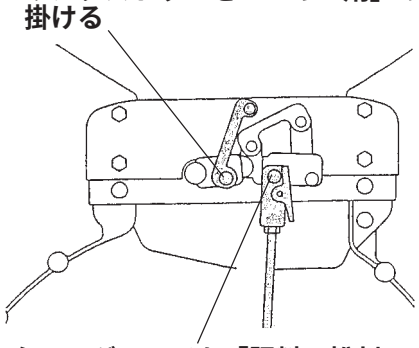
（図１参照）

- ホースを伸ばし、一人がホースの先端を保持します。
- ホースの先端を持つ人は、ホースが水平になるように引っ張り、たるまないようにして機械側の人と平行になるように歩きます。
- 濡れたホースは、よい散布効果をえられないことがあります。
- 散布終了後は調量レバーを全閉にして薬剤を充分に吐き出しきり、ホースが濡れないところまで移動してエンジンを停止します。
- 散粉ホースを使って大量に吐粉しながら急に散粉ホースの根元を押えることは避けてください。
  散粉ムラやホース損傷の原因となります。
  吐粉しながら僅かに浮き上がるように風量を調整します。
- 散粉ホースは規定の長さで使用するように心掛けてください。調量は２４ページのグラフを参照してください。

図１

粉剤を散布するとき（ホースのみ）

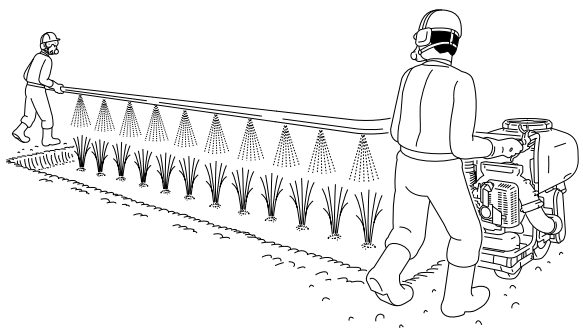
リンクストッパを「１キロ剤」の位置に掛ける



メータリングロッドを「肥料・粉剤」の位置にセット

図２

吐粉しながら僅かに浮き上がるようにエンジンの回転を調整します



ＤＬ粉剤散布

- ＤＬ粉剤の散布はふつうの粉剤と同じ要領で散布しますが、調量レバーはそのときよりも一段程度下げて、スロットルレバーは少し低速にして散布するのが適当です。
- ＤＬ粉剤は種類により吐出量が異なり、また吐出状態が見えにくいので、散布し過ぎないよう充分注意して散布してください。

吐出量と調量レバー

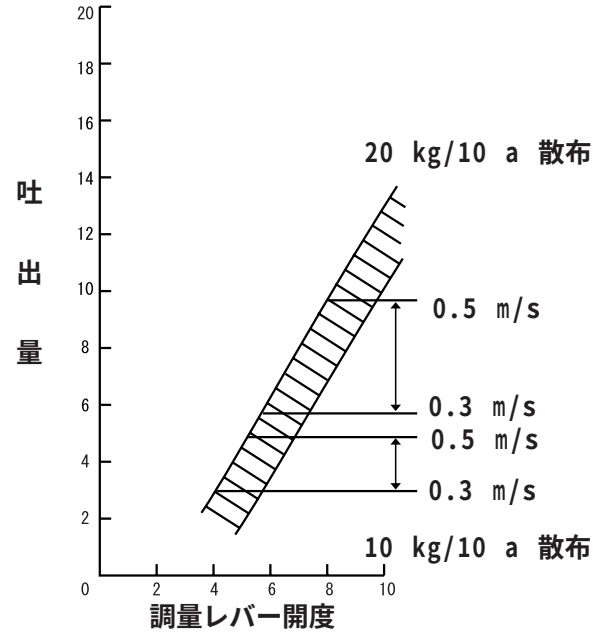
肥料散布

メータリングロッドを「肥料・粉剤」の位置にセットしてリンクストッパを「1キロ剤」の位置に掛けます。

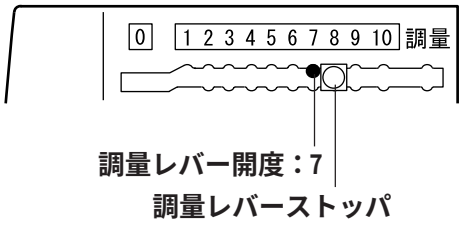
※ 歩行速度は0.3ｍ/ｓ～0.5ｍ/ｓが標準です。
その範囲内で調量レバー開度を調整してください。

畦畔噴頭

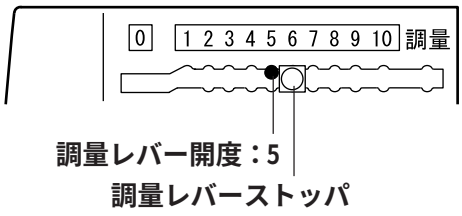
散布幅：16 m



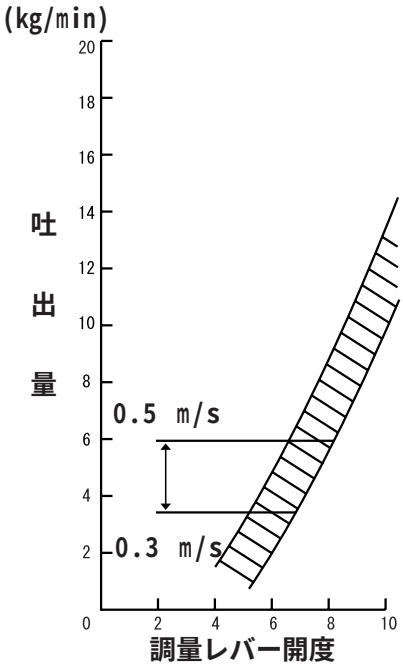
20 kg/10 a 散布のとき

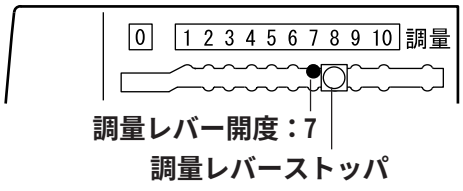


10 kg/10 a 散布のとき

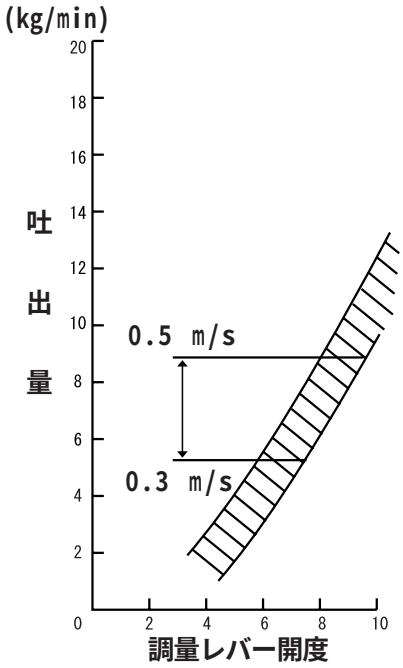


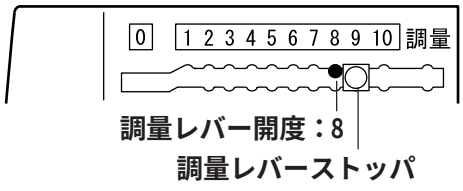
20ｍ肥料用ホース DMHF-20B





30ｍ肥料用ホース DMHF-30B



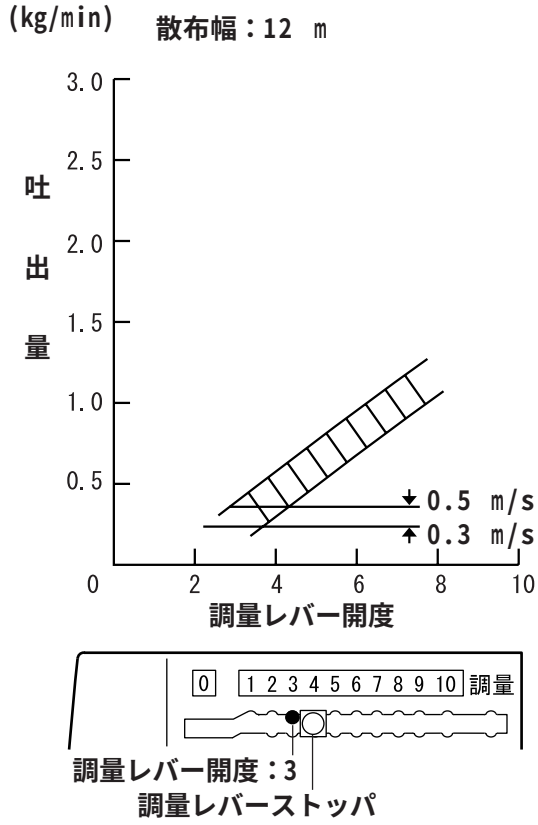


除草剤（1キロ粒剤）の散布

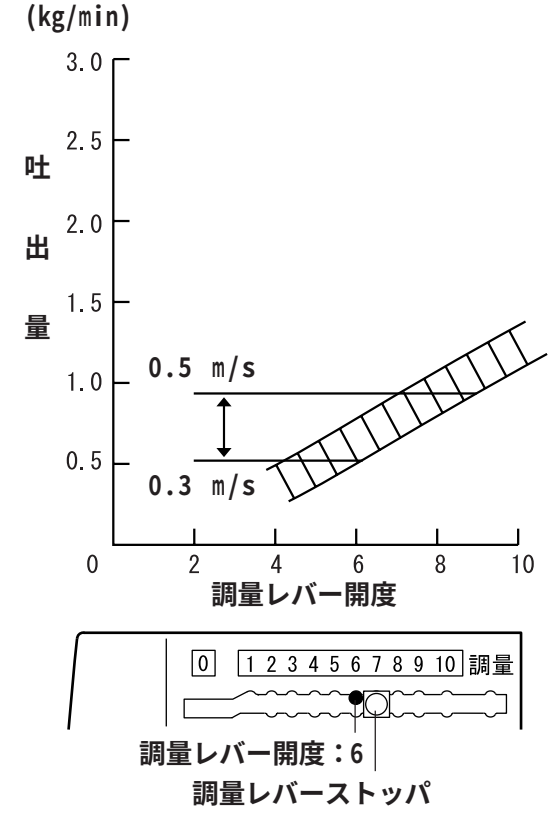
メータリングロッドを「1キロ剤」の位置にセットしてリンクストッパを「肥料・粉剤」の位置に掛けます。

※歩行速度は0.3ｍ/ｓ～0.5ｍ/ｓが標準です。その範囲内で調量レバー開度を調整してください。

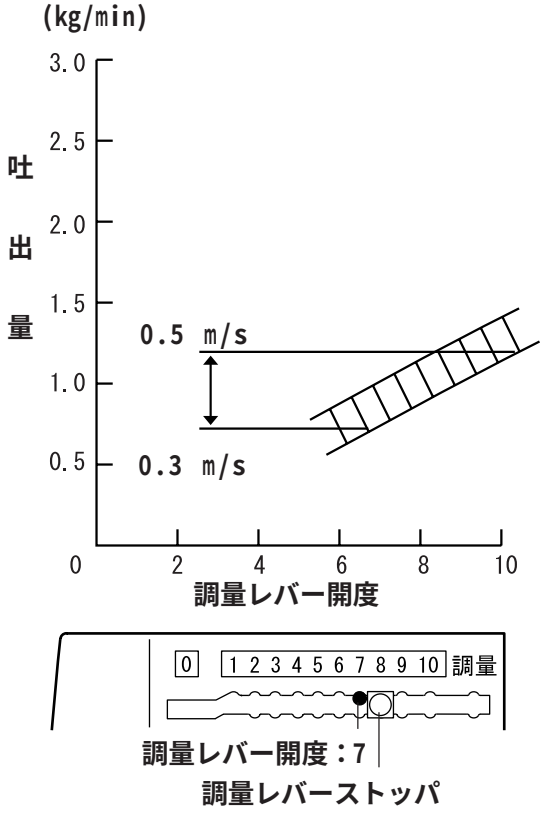
畦畔噴頭



30ｍ散粒ホース DMHG-301



40ｍ散粒ホース DMHG-401



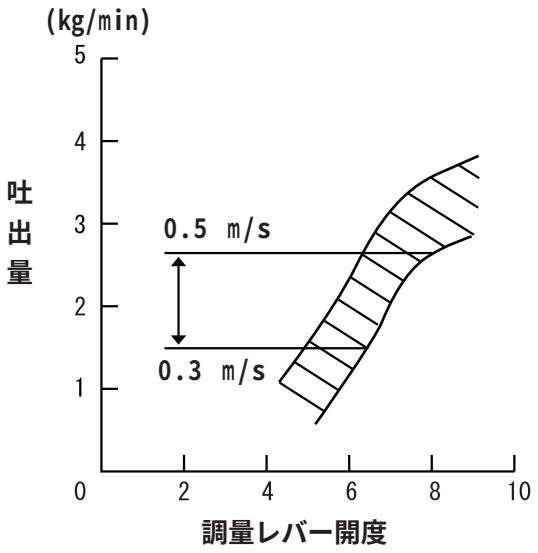
散粉ホースの散布

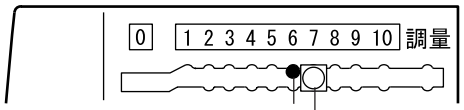
3kg/10a 散布

メータリングロッドは「肥料・粉剤」の位置にセットしてリンクストッパを「1キロ剤」の位置に掛けます。

※ 歩行速度 0.3ｍ/ｓ～0.5ｍ/ｓが標準です。その範囲内で調量レバー開度を調整してください。

30ｍ散粉ホース　DVH-30

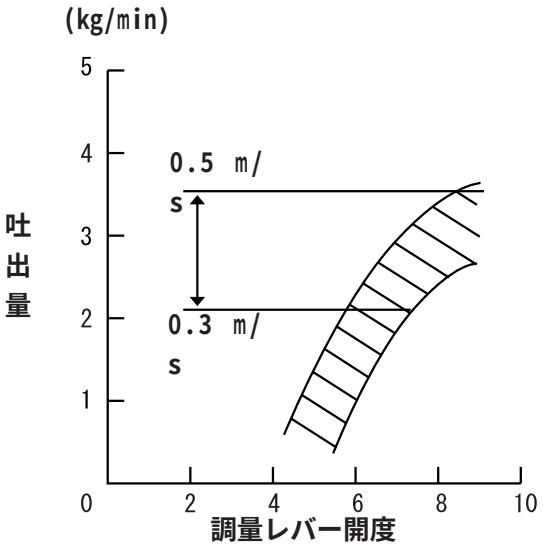


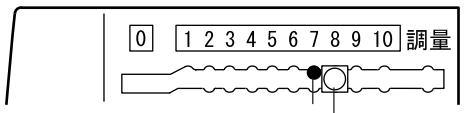


調量レバー開度：6

調量レバーストッパ

40ｍ散粉ホース　DVH-40





調量レバー開度：7

調量レバーストッパ

点　検・整　備

⚠ 注　意

- **点検・整備をする前に必ずエンジンを停止し、冷えた状態でスパークプラグキャップを外して作業してください。**
- **発火テストは、シリンダのプラグ穴の上ではしないでください。シリンダ内の混合気に引火し、火傷の恐れがあります。**

整備の目安

重　要

年単位および月単位の整備に要する日数間隔については実際の使用と経験から判断してください。

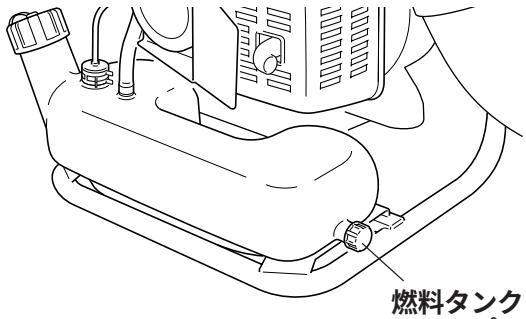
● **製品を調子良く、安全に使用するために定期的に点検・整備をしてください。**

整　備　箇　所	整　　備	掲載ページ	使用前	毎　月	毎　年
エアフィルタ	点検 / 交換	26	●		
燃料フィルタ	点検 / 交換	26		●	
燃料パイプ	点検	25		●	
スパークプラグ	点検 / 清掃と調整 / 交換	27		●	
キャブレタ	点検	-			●
シリンダフィン	点検 / 清掃	26	●		
マフラ	点検、増し締め / 清掃	26			●
ファンケース	点検 / 清掃	26	●		
燃料系統	点検 / 修理	25	●		
ネジ、ボルト、ナット類	点検、ネジ類の増し締め / 交換	-	●		
バッテリ液量	点検	30	●		
バッテリ充電状態	点検 / 補充電	12，13，27	６ヶ月ごと		
電気配線	点検 / 交換	-			●
走行チェーン	点検 / 注油	30			●

重　要

・作業が終了した後は、本機をよく清掃し常に最良の状態に点検・整備をしておくことが、次回の散布作業を順調に進めるのに最も大切なことです。
・使用後は必ずエアフィルタを清掃してください。
・燃料フィルタが汚れているとエンジンがスムーズに始動しなかったり、エンジン性能が低下したりします。
・燃料タンクは常に清掃しておきます。燃料タンクにゴミや砂などが入らないようにしてください。
燃料フィルタ取付け時には、燃料フィルタが燃料タンクの底面に届いていることを確認してください。
・スパークプラグは締付け過ぎないでください。
・フックの長さの調整で薬剤タンクの締付けの調整が可能ですが、締め過ぎないでください。
・ご不明の点については、お買い求めの販売店にご相談ください。

図１



点検要領

⚠ 警　告

・髪の毛がファンに巻き込まれないように注意してください。
・エンジンを運転しているときは、ファンの吸込み口に絶対に手を入れないでください。
風圧によって手が引き込まれ指にケガをすることがあります。

燃料パイプ、燃料グロメット、燃料タンクガスケット

・ご使用前に燃料を補給した後、燃料パイプ、燃料グロメット、燃料タンクドレンプラグ、燃料タンクキャップ周辺から燃料の漏れ、にじみがないことを確認してください。
・燃料の漏れ、にじみがある場合は、火災の危険がありますので、直ちに使用を中止し、お買い求めの販売店に点検、交換を依頼してください。
・燃料パイプ、グロメット、ガスケット類を取付け、取外しするときは、傷をつけないように、先端が鋭利な工具類は使用しないでください。
また、取付け後は各部から燃料の漏れ、にじみがないことを必ず点検してください。

燃料の抜き取り

・ 燃料タンクドレンプラグの下に燃料を受ける容器を置きます。
・ 燃料タンクドレンプラグを取外して燃料を完全に抜きます。
・ 燃料を抜き取った後は燃料タンクドレンプラグを取付けておきます。

図１

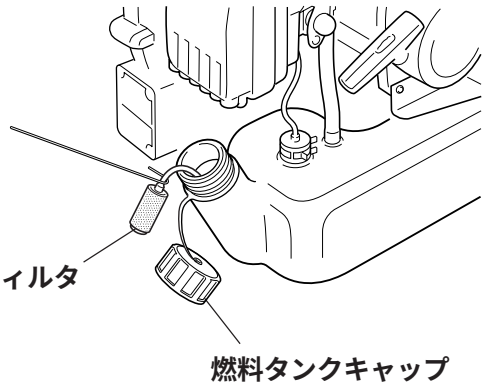


図２

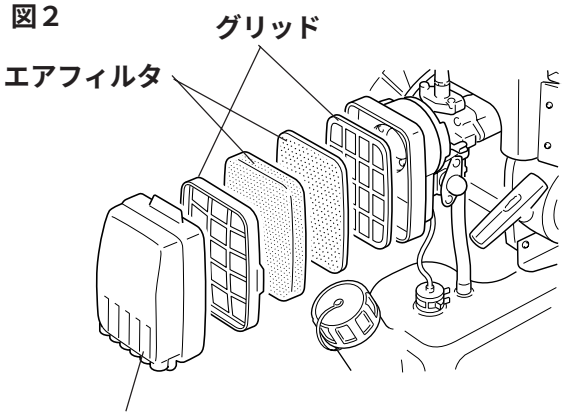


図３

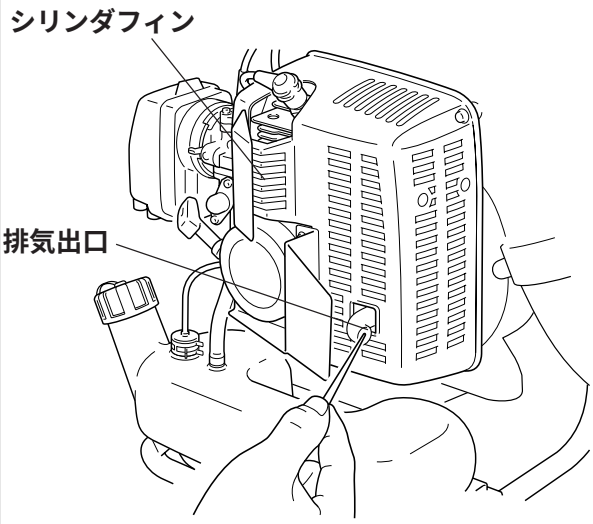
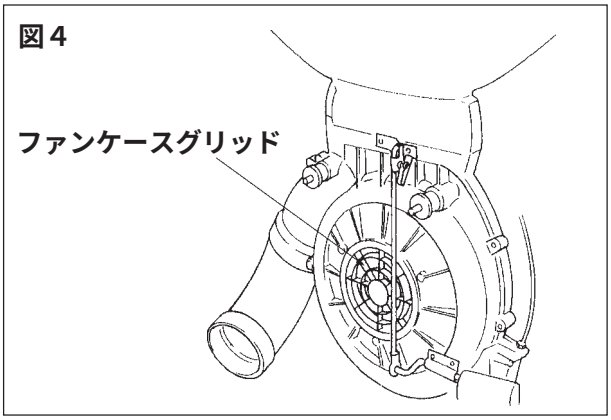


図４



燃料フィルタの交換

- 燃料タンクキャップを外します。
- 針金などを使用して、燃料タンクの給油口から燃料タンク内にある燃料パイプ（ゴムパイプ）を引き上げます。
- 燃料パイプから古い燃料フィルタを取外し、新しい燃料フィルタを取付けます。
- 燃料タンクは常に清掃しておきます。燃料タンクにゴミや砂などが入らないようにしてください。
- 燃料フィルタ取付け時には、燃料フィルタが燃料タンクの底面に届いていることを確認してください。

エアフィルタの清掃

- チョークを閉じてから、エアクリーナカバー、グリッド、エアフィルタを取外します。
  エアフィルタの汚れ具合を点検し、汚れがひどい場合は中性洗剤を使って洗ってください。洗剤を使用した場合は、充分に水洗いをし、よく乾かしてください。
- エアフィルタを完全に乾かしたのち、取付けてください。

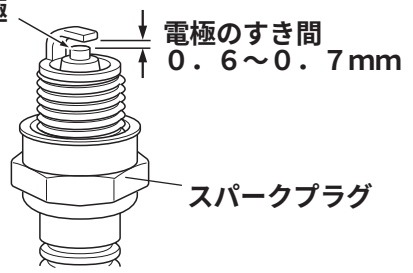
マフラとシリンダフィン

- マフラのゆるみはガス漏れ、タール漏れを起こし、思わぬ事故につながりますので、増し締めしてください。
- 排気出口のカーボンを取除いてください。
  エンジンの性能を一定に保つため、この作業は定期的に実施してください。
- シリンダフィンは常に清掃してください。
  シリンダフィンの間に物が詰まると、エンジンがオーバーヒートする恐れがあります。木の棒などを使って、芝、泥、葉、その他のゴミ屑をシリンダフィンの間から取除いてください。シリンダフィンは薄くて割れやすいので、清掃するときは金属の棒などで衝撃を与えないようにしてください。

ファンケースグリッド

- ファンケースグリッドは、毎日清掃する必要があります。グリッドが詰まると、エンジンがオーバーヒート（焼き付く）する恐れがあります。
- 髪の毛がファンに巻き込まれないように注意してください。
  エンジンが回転しているときは、ファンケースグリッドに絶対に手を入れないでください。風圧によって手が引き込まれ指にケガをすることがあります。
- ファンケースグリッドの中の、ホコリ、葉、その他のゴミをすべて取出してください。異物がファンケースグリッドを通してファンケースに入り込まないように注意してください。ゴミ屑を取出す場合は、エンジンが完全に停止していることを確認してから、手を入れてください。
- 異物がファンケースの中に入るとファンやファンケース損傷の原因になります。

図１



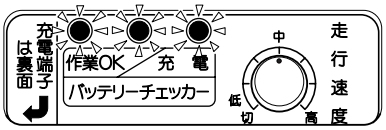
スパークプラグ

- 付属のソケットレンチ（１９mm）でスパークプラグを外してください。
- 電極が減っているとき、すき間不良のとき（正しいすき間は０．６～０．７mm＝ハガキ３枚分の厚さ)、また電極の周囲にオイルや堆積物が付いているときは、新しいプラグと交換してください。（図２参照）
- スパークプラグは、付属のソケットレンチでしっかり締付けてください。
  参考：締付けトルクは１５～１７N・m
  （１５０～１７０kgf・㎝)です。

バッテリの充電

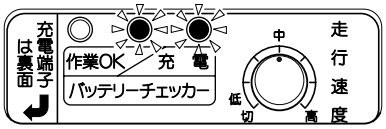
図２

ランプが３個点灯



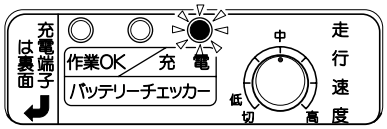
充電する必要はありません。
そのままで作業できます。

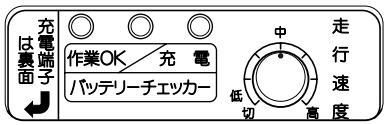
ランプが２個点灯



充電しなくても作業はできますが
できるだけ充電するようにして
ください。

ランプが１個点灯または
点灯しない





充電が必要です。

重　要

バッテリは長時間放置すると自然放電します。
使用しないときでも、バッテリの残量チェックをして、必要に応じて充電してください。
バッテリの充電、残量チェックについては、１２～１３ページを参照してください。

バッテリの残量を確認します。
バッテリチェッカのランプの点灯状態により充電が必要か判断します。（図２参照）
バッテリの充電方法と取扱上の注意は１２～１３ページを参照してください。

重　要

本機を洗浄するときはバッテリなどの電気部品に水がかからないように注意してください。
本機を高圧洗浄機で洗わないでください。電気部品に水がかかり故障の原因になります。

清掃

薬剤タンク内に残留している薬剤を排出するか取出します。
薬剤タンク、シャッタ、吐出管の内側を清掃します。
機械の外側に付いたオイル、ホコリ、ゴミなどをきれいに拭き取り、タイヤについた泥などの汚れをきれいな水で洗い流してください。

図１

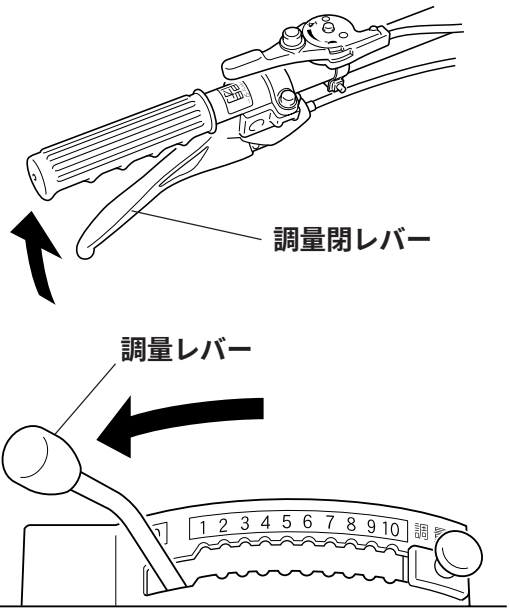


図２

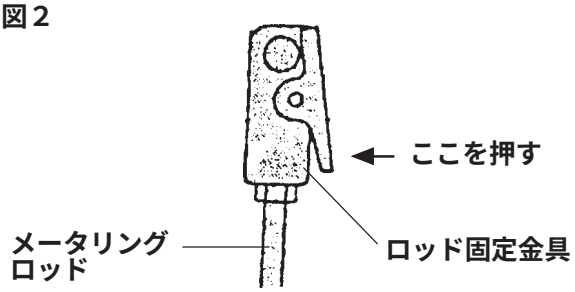


図３

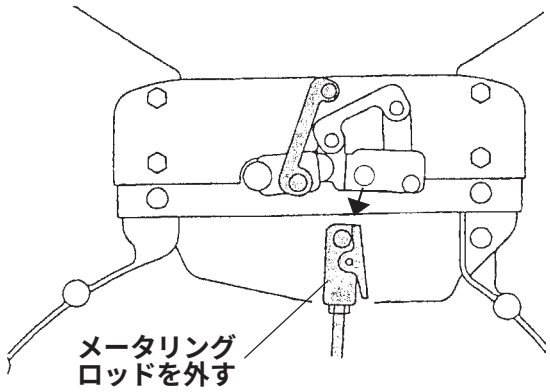
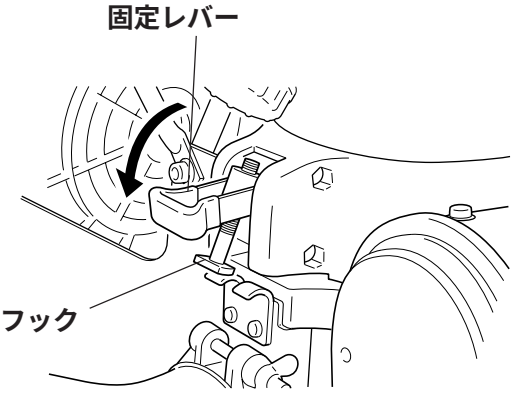


図４

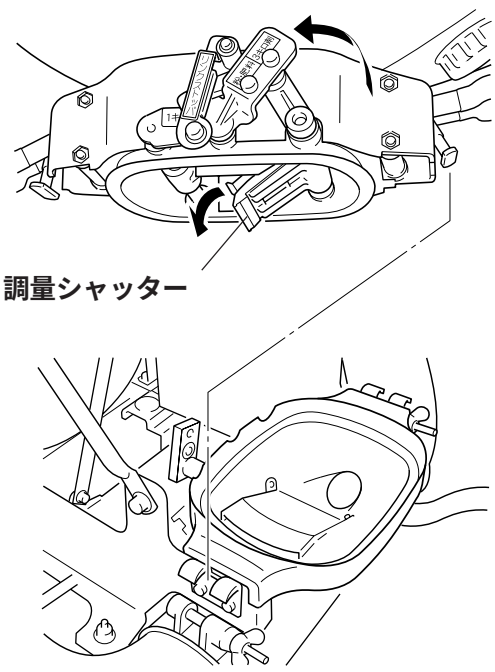


薬剤タンクと散布装置

薬剤タンクを本体から取外して清掃します。
薬剤タンクキャップは常に完全な気密を保つことが必要ですから、パッキンの損傷には充分注意してください。
使用しないときは薬剤タンクキャップパッキンの保護のため、薬剤タンクキャップはゆるめておきます。
薬剤タンクの中に薬剤が残っているときは次の要領で残った薬剤を別の容器にうつしてください。

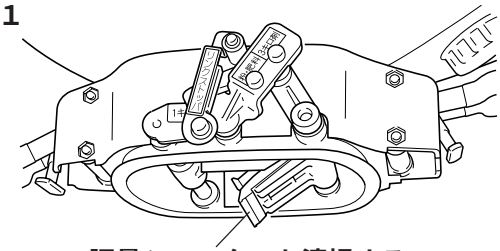
１．薬剤タンクキャップを少しゆるめ、薬剤タンク内の圧力を下げます。
２．調量レバーまたは調量閉レバーで調量シャッターを完全に閉じます。（図１参照）
３．メータリングロッドを調量ア―ムから外します。
４．固定レバー（２ヶ所）を下げ、フックをタンク部より外します。（図４参照）
５．薬剤タンクキャップと薬剤タンクを外し、調量シャッターを手で操作して薬剤を別の容器にうつします。（図５参照）

図５



カラの薬剤タンクを取外すときは、薬剤タンクを取外す前に必ず２～３分低速でカラ運転してください。
また、１、２、５の作業は必要ありませんので３、４の手順の後、薬剤タンクを取外してください。

図１



調量シャッターを清掃する

図２

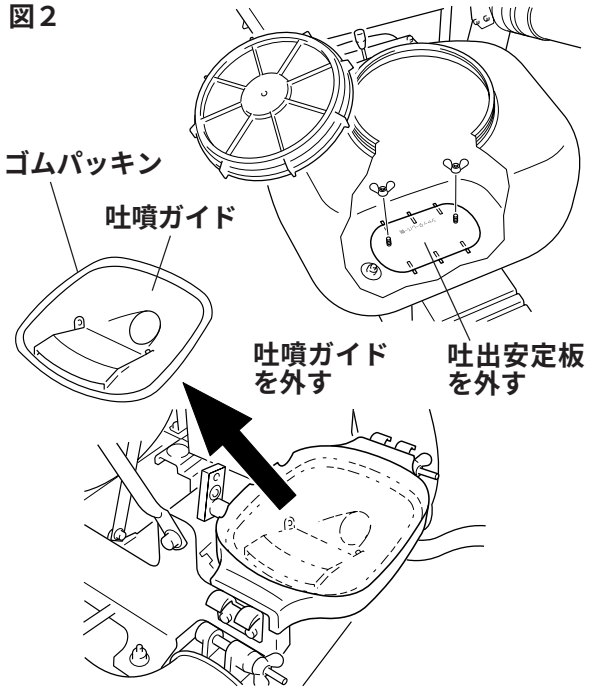


図３

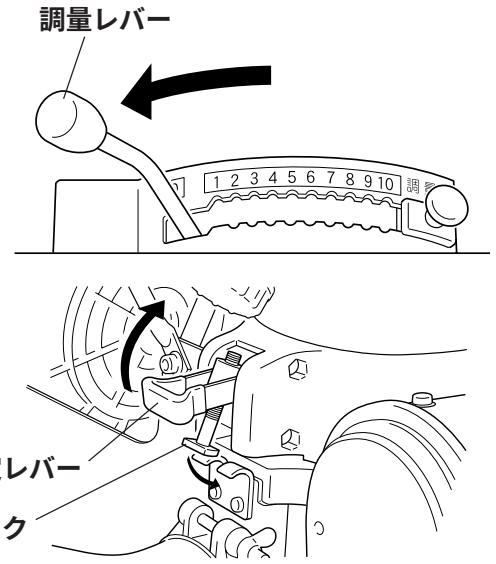
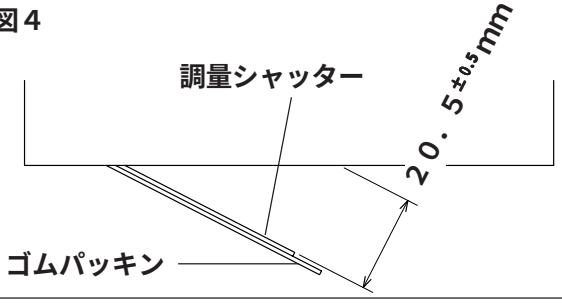


図４



調量シャッタおよびタンク内外面をよく清掃してください。特に肥料を散布した後の清掃はていねいにしてください。

- 薬剤タンクの内部、調量シャッター部分に付着している肥料や薬剤を取除きます。（図１参照）
- 吐噴安定板と吐噴ガイドを取外し薬剤タンク取付台の内部を清掃します。（図２参照）
- 吐噴ガイドとゴムパッキンも清掃します。

清掃後は各部品を元通りに組付けます。

薬剤タンクの組付け

次の要領で薬剤タンクを組付けます。

１．調量レバーを「０」位置にします。（図３参照）
２．調量シャッターを完全に閉じます。
３．薬剤タンクを本機に乗せます。
４．フックをタンク部に掛けてから左右２ヶ所の固定レバーを同時に上げて薬剤タンクを締めてください。（図３参照）
５．メータリングロッドを「肥料・粉剤」または、「１キロ剤」にセットし、他方にリンクストッパを掛けます。

薬剤タンクを組付けた後は、調量シャッターの作動確認をします。調量レバーが「0」で調量シャッターが完全に閉じていることを確認してください。
フックの長さの調整で薬剤タンクの締付けの調整が可能ですが、締め過ぎないように注意してください。
清掃後は必ず２～３分間低速でカラ運転してください。

調量シャッターの開度調整

調量シャッターの開度調整は次の手順で行ないます。

１．メータリングロッドを「肥料・粉剤」にセットしてリンクストッパを「１キロ剤」に掛けます。
２．調量レバーを全開（「１０」の位置）にして、調量シャッターがこの状態から動かないようにメータリングロッドを外して薬剤タンクを本機から取外します。
３．調量シャッターの開き量を測ります。このときの開き量が２０．５$^{\pm 0.5}$mmであれば良好です。（図４参照）
４．開き量が良好でないときはロッド固定金具に付いてるターンバックルでロッド長さを調整し、再度開き量を確認します。

ご不明の点については、お買い求めの販売店にご相談ください。

図１

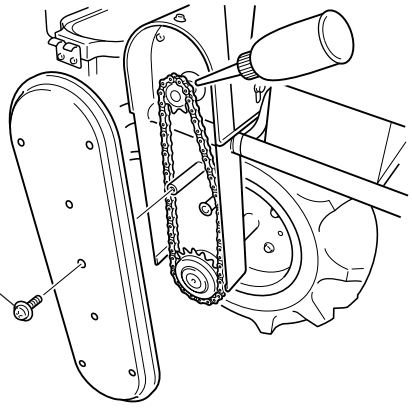


図２

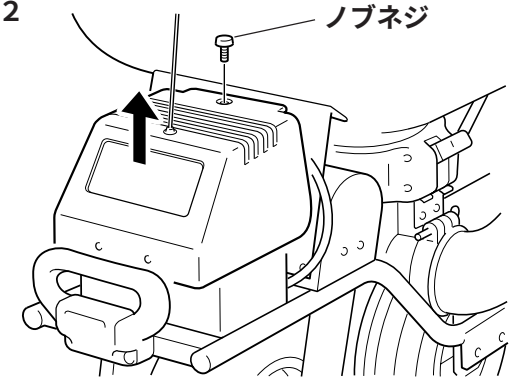


図３

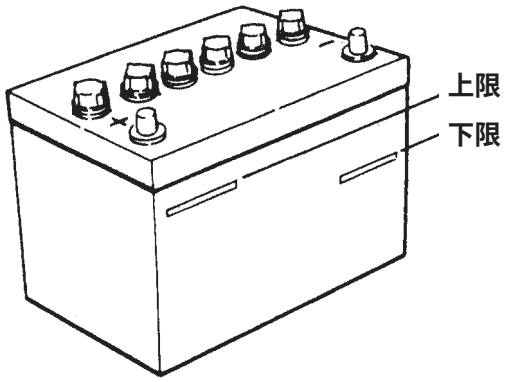
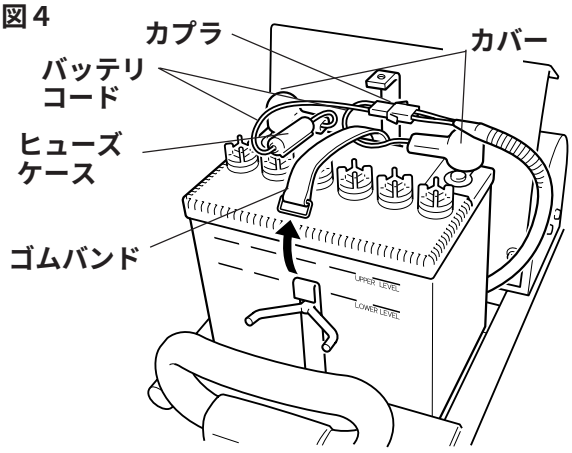


図４



重　要

・ヒューズが切れたときは、必ずその原因を点検して修理してからヒューズを交換してください。
・指定以外のヒューズを使用しないでください。

走行用チェーン

スパナでチェーンカバーを固定しているボルト（１個）を外し、チェーンカバーを取外します。（図１参照）
走行用チェーンに注油します。
注油後はチェーンカバーを取付けてください。

バッテリの点検

- バッテリカバー上部のノブネジを外し、バッテリカバーを取外します。（図２参照）
- バッテリ端子にかぶせてあるカバーを外し、バッテリの端子を点検します。端子がゆるんでいないか確認し、ゆるんでいる場合は確実に締付けます。端子に腐食や汚れがある場合にはお湯で掃除し、グリスを塗布します。その後、端子にカバーをかぶせます。（図４参照）
- バッテリ液の量を点検します。バッテリ液の量が上限と下限のラインの間にあるか確認し、不足している場合は蒸留水を補給します。（図３参照）
- バッテリ液の量が上限のラインを超えると充電時にバッテリ液が吹き出し、機械の金属部分を腐食させます。
- バッテリ液の量は常に規定量を保ってください。

バッテリの交換

- バッテリカバー上部のノブネジを外し、バッテリカバーを取外します。（図２参照）
- バッテリを固定しているゴムバンドを外します。
- バッテリコードのカプラーを外し、バッテリを取外します。（図４参照）
- 古いバッテリに付いているバッテリコードを外して新しいバッテリに付けて、端子部分にグリースを塗布しておきます。バッテリの端子には必ずカバーをかぶせてください。
- 新しいバッテリを載せてバッテリコードのカプラーを接続します。
- ゴムバンドでバッテリを固定します。

重　要

・バッテリは必ず指定のものを使用してください。
指定バッテリ：３０Ａ１９Ｌ
・環境保全と資源のリサイクルのため、交換後の古いバッテリは、放置したり、捨てたりしないでください。必ず、バッテリを購入したお店に渡してください。資源としてリサイクルされます。

ヒューズの交換

- バッテリカバー上部のノブネジを外し、バッテリカバーを取外します。（図２参照）
- バッテリを固定しているゴムバンドを外します。
- ヒューズケースを開きヒューズを交換します。
交換後はバッテリをゴムバンドで固定し、バッテリカバーを取付けてください。（図４参照）
- ヒューズは２０Ａ ２５０Ｖ（ＪＩＳ ＭＦ－６１）を使用してください。

故障診断と対策

⚠ 警　告

交換・清掃・調整してもトラブルが解消しないときは、お買い求めの販売店へご相談ください。

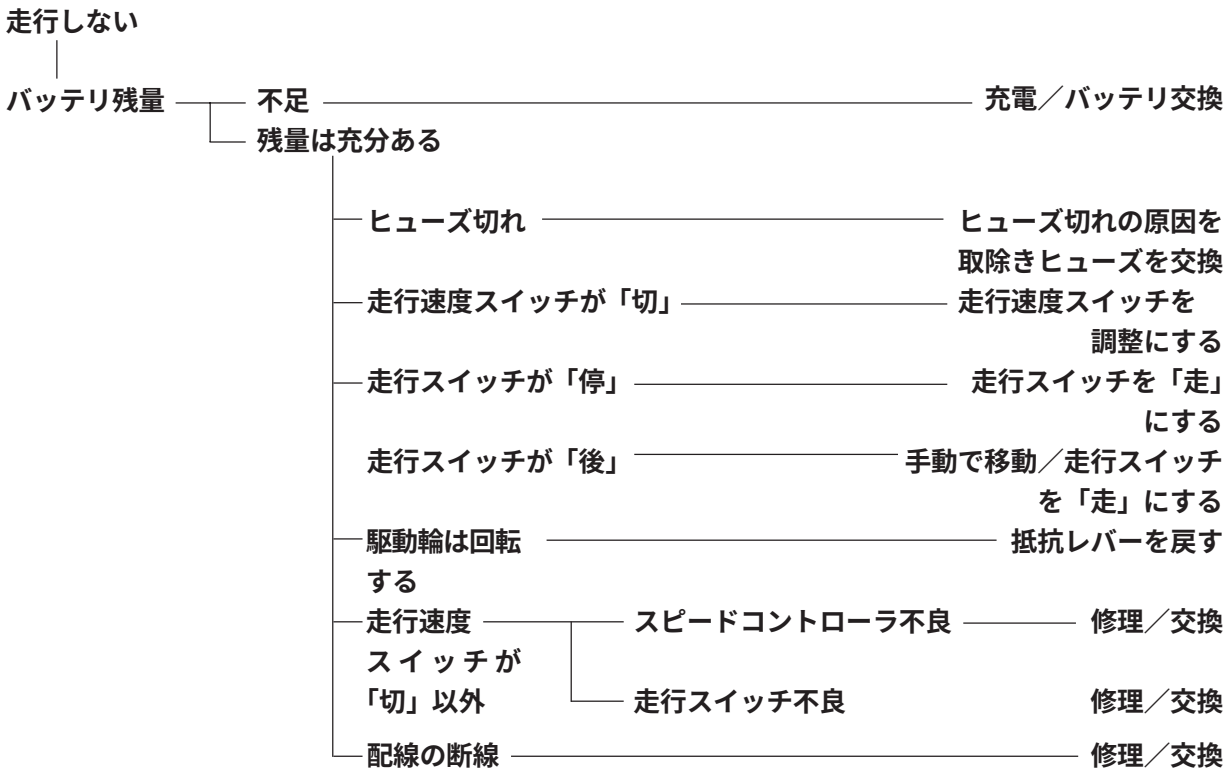
エンジンの調子が悪く故障診断するときは、まず次のことを確認してください。

- **燃料タンクに燃料が入っていること。**
- **スロットルレバーがアイドリング / 始動位置にあること。**

散布系

故障内容			原因	対策
エンジンが始動困難、または始動しない				
クランク軸が回転する →	キャブレタの燃料 →	キャブレタに燃料がない	●燃料フィルタの目詰まり ●燃料系統の目詰まり ●キャブレタの不良	●清掃／交換 ●清掃 ●販売店へ
	シリンダの燃料 →	シリンダに燃料がない	●キャブレタの不良	●販売店へ
	→	プラグが燃料で湿っている	●空燃比(空気と燃料の混合比)が濃すぎる	●チョークを開く ●エアフィルタ清掃／交換 ●キャブレタ調整 ●販売店へ
	プラグコードの先端で発火する →	プラグコードの先端で発火なし	●電気的故障	●販売店へ
	スパークプラグは発火する →	スパークプラグが発火しない	●電極の隙間が正しくない ●カーボン（炭素）の堆積 ●燃料による汚れ ●スパークプラグの不良	●0.6～0.7mmに調整 ●清掃／交換 ●清掃／交換 ●交換
クランク軸が回転しない			●エンジン内部の故障	●販売店へ
エンジンは始動する	持続しない、または加速不充分		●エアフィルタの汚れ ●燃料フィルタの汚れ ●燃料通路の詰まり ●スパークプラグの不良 ●キャブレタの不良 ●冷却装置の詰まり ●排気口／マフラ出口の詰まり	●清掃／交換 ●清掃／交換 ●清掃 ●清掃、調整／交換 ●調整 ●清掃 ●清掃
	粉剤／粒剤／肥料が吐出されない、またはスムースでない →	シャッターメカニズムの誤動作	●シャッターの変形 ●シャッター連動リンクのゆるみまたはずれ ●シャッター調量アームの調整不良	●交換 ●調整／固定 ●調整
	→	薬剤が原因	●薬剤が湿気をおびているか、古くなっている ●異物が薬剤の中に混入している ●薬剤が固まっている	●新しい薬剤または乾燥した薬剤を使用する ●薬剤を取除き、新しいものを入れる ●固まりを砕く
	→	組付不良	●薬剤タンクのふたがゆるんでいる ●薬剤タンクの取付けが不安定	●締める ●固定する

走行系


走行しない
バッテリ残量
不足
充電／バッテリ交換
残量は充分ある
ヒューズ切れ
ヒューズ切れの原因を取除きヒューズを交換
走行速度スイッチが「切」
走行速度スイッチを調整にする
走行スイッチが「停」
走行スイッチを「走」にする
走行スイッチが「後」
手動で移動／走行スイッチを「走」にする
駆動輪は回転する
抵抗レバーを戻す
走行速度スイッチが「切」以外
スピードコントローラ不良
修理／交換
走行スイッチ不良
修理／交換
配線の断線
修理／交換

保　　管

⚠ 警　告

燃料ガスが充満している密閉された場所や、裸火、火花のある場所に保管しないでください。

重　要

・この取扱説明書は、いつでも読めるよう保管してください。
・本機を洗浄するときはバッテリなどの電気部品に水がかからないように注意してください。
・本機を高圧洗浄機で洗わないでください。
電気部品に水がかかり故障の原因になります。

長期保管（３０日以上）

機械を長期間（30日以上）にわたって保管する場合は、以下に示す保管の際の整備を必ず実施してください。

１．薬剤タンク内に残留している薬剤を排出するか取出します。薬剤タンク、シャッタ、吐出管の内側を清掃します。機械の外側に付いたオイル、ホコリ、ゴミなどをきれいに拭き取り、タイヤについた泥などの汚れをきれいな水で洗い流してください。
２．本書に定められた定期的な点検をしてください。機械の全ての部分を検査し、調節してください。スクリュ、ナット類が締まっているか確認してください。ゆるんでいる場合は増し締めしてください。
　Ａ．必要ならば掃除をし、修理をしてください。
　Ｂ．サビ止めに、金属部分には薄く油を塗ってください。
３．燃料タンクドレンから燃料を排出し、キャブレタ内の燃料も排出してください。
４．スパークプラグを外し、その取付穴から大さじ１/２杯の、新しくきれいな２サイクルエンジンオイルをシリンダに入れてください。
　Ａ．スパークプラグの取付穴の上にきれいな布を掛けてください。
　Ｂ．スタータグリップを２、３回引いて、エンジンオイルをシリンダ内に行き渡らせてください。
　Ｃ．スパークプラグ取付穴からピストンの位置を確認してください。スタータグリップをゆっくり引き、ピストンが最も上のところで止まるようにしてください。
５．スパークプラグを取付けてください。
（スパークプラグキャップは接続しないでください。）
６．バッテリを充電して満充電の状態にします。
７．機械を乾かし、子供の手の届かないホコリの少ない場所に保管してください。

別　売　品

本機に同梱されている畦畔噴頭のほかに、別売品として次のものがあります。ご利用状態により別途お買い求めください。

● ホース継手
● 散粒ホース
　肥料用
　　ＤＭＨＦ－２０Ｂ　（２０mホース）
　　ＤＭＨＦ－３０Ｂ　（３０mホース）
　１キロ粒剤用
　　ＤＭＨＧ－３０１　（３０mホース）
　　ＤＭＨＧ－４０１　（４０mホース）
● 散粉ホース
　　ＤＶＨ－３０　（３０mホース）
　　ＤＶＨ－４０　（４０mホース）
● ガイドローラー
　　ＤＶＡ００１

※ガイドローラー装着の際には、「ＤＶ１/２６、/５２用タイヤ（幅狭タイヤ）」と併せて変更してください。

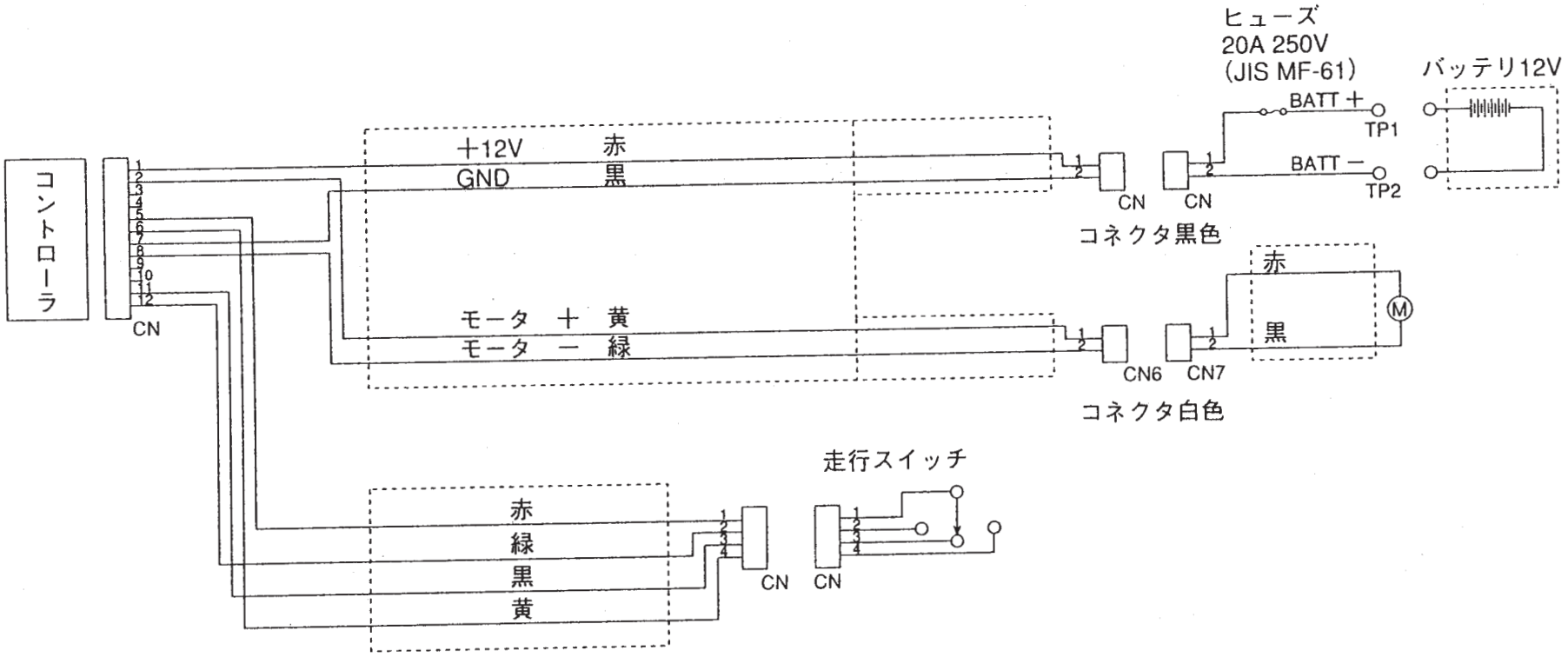
仕　　様

項　　目	単位	DV1/52W
質量	kg	49.6
容量		
燃料タンク	L	1.8
薬剤タンク	L	52
外形寸法（本体）		
全長	mm	1150
全幅	mm	605
全高	mm	985
エンジン		
形式		空冷２サイクル単シリンダ
排気量	mL	58.2
キャブレタ		ＴＫ循環式
点火方式		フライホイールマグネト：ＣＤＩ方式
スパークプラグ		ＮＧＫ　ＢＰＭ７Ｙ
始動方式		リコイルスタータ
燃料混合比		[レギュラーガソリン：２サイクルエンジンオイル] ・共立純正２サイクル専用オイル　ＪＡＳＯ性能分類 ＦＣ　　;[５０：１] ・２サイクルエンジンオイル　　ＪＡＳＯ性能分類　ＦＢ，ＦＡ　;[２５：１]
モータ		
方式	－	直流モータ
出力	－	１２Ｖ－４０Ｗ
バッテリ		
型式	－	３０Ａ１９Ｌ
容量	－	１２Ｖ－２１ＡＨ
充電時間		－

(質量：たわみ噴管、噴頭、噴管類、燃料除く　寸法：たわみ噴管、噴頭、噴管類除く)

＊ この仕様は予告なしに変更することがあります。

配　線　図


コントローラ
CN
＋12V　赤
GND　黒
モータ　＋　黄
モータ　－　緑
CN
CN
コネクタ黒色
ヒューズ
20A 250V
(JIS MF-61)
BATT ＋
TP1
BATT －
TP2
バッテリ12V
赤
黒
M
CN6
CN7
コネクタ白色
走行スイッチ
赤
緑
黒
黄
CN
CN

株式会社 共立

東京都青梅市末広町1-7-2　〒198-8711　☎0428-32-6181

北海道共立エコー株式会社
札幌市厚別区大谷地東1-2-20　〒004-0041　☎011-891-2249(代)

東北共立エコー株式会社
仙台市若林区卸町東5-1-50　〒984-0002　☎022-288-0511(代)

東部共立エコー株式会社
青梅市末広町1-7-2　〒198-0025　☎0428-32-1091(代)

中部共立エコー株式会社
愛知県清須市西枇杷島町宮前1-39　〒452-0031　☎052-502-4111(代)

西部共立エコー株式会社
岡山市藤田566-159　〒701-0221　☎086-296-5911(代)

九州共立エコー株式会社
大野城市白木原5-3-7　〒816-0943　☎092-573-5361(代)

エコーレンテックス株式会社
青梅市末広町1-7-2　〒198-0025　☎0428-32-6777(代)

◎ご用命の際はお買い上げいただいた販売店へご連絡ください。

X750-008　800
X750 106-6200　　0601A 0024 ES

© **2006** 株式会社 共立　著作権法により無断での複製、転載などは禁止されております。